

令和 2 年度
事業報告書

学校法人 平成医療学園

目 次

I. 法人の概要	1
1. 名称・所在地	1
2. 建学の理念	1
3. 沿革	1
4. 設置する学校	2
5. 学生数	4
(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率	4
(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率	6
(3) 入学者数の推移	8
(4) 専任教員1人当たりの学生数	11
6. 理事・監事・評議員	13
7. 組織	15
8. 教職員数	16
(1) 教職員数	16
(2) 年齢別専任教員数	16
(3) 職階別専任教員数	18
(4) 専任教員・非常勤教員比率	19
II. 事業の概要	22
1. 基本的な方針	22
2. 事業の実施状況	22
(1) 宝塚医療大学	22
(2) 平成医療学園専門学校	28
(3) 横浜医療専門学校	31
(4) なにわ歯科衛生専門学校	34
(5) 名古屋平成看護医療専門学校	36
(6) 日本総合医療専門学校	38
(7) 法人本部	39
3. 理事会・評議員会の開催状況	41
4. 学位又は称号	47
(1) 取得可能な学位又は称号	47
(2) 学位授与数及び授与率	48
5. 学生生徒等納付金	49
6. 卒業及び就職等の状況	53
(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等	53
(2) 主な就職先	55
7. 国家試験の受験状況	56
8. 退学者数・除籍者数・留年者数・中退率	58
(1) 退学者数	58
(2) 除籍者数	58
(3) 留年者数	58
(4) 中退率	59
9. 社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数	60
(1) 社会人学生数	60
(2) 留学生数	60
(3) 海外派遣学生数	60
III. 財務の概要	61
1. 学校法人会計基準	61
2. 各科目の説明	61
3. 財政運営	64
4. 資金収支計算書	65
5. 事業活動収支計算書	66
6. 貸借対照表	67
7. 基本金	68
8. 財産目録	69
9. 主な財務比率	72

I. 法人の概要

1 名称・所在地

名 称	学校法人平成医療学園
理事長名	岸野 雅方
所在地	〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17
電話番号	06-6375-7773
認可年月日	平成13年 3月 30日 大阪府知事認可 (準学校法人) 平成22年 10月 29日 文部科学大臣認可 (学校法人)

2 建学の理念

学校法人平成医療学園は、平成12年4月に「全国柔整鍼灸協同組合」が母体となり、柔道整復、はり、きゅう、あん摩マツサーズ指圧の施術を行っている治療家たちが、自らの後継者を自らの手で育てようという理念に基づき、厚生省（現：厚生労働省）から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設したことに始まります。

本学園は、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」を目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。

3 沿革

2000(平成12)年 4月	厚生大臣から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設
2001(平成13)年 4月	大阪府知事から準学校法人の認可を受け、併せて、「平成柔道整復専門学院」を「平成医療学園専門学校」に名称変更
2002(平成14)年 4月	「平成医療学園専門学校」に鍼灸師科を開設
2003(平成15)年 4月	「平成スポーツトレーナー専門学校」開設
2005(平成17)年 4月	「横浜医療専門学院」開設
2006(平成18)年 4月	「平成医療学園専門学校」に東洋療法教員養成学科を開設
2007(平成19)年 4月	「横浜医療専門学院」を「横浜医療専門学校」に名称変更
2009(平成21)年 4月	「大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校」を学校法人大阪産業大学から経営移管、校名を「なにわ歯科衛生専門学校」に名称変更
2010(平成22)年 3月	「平成スポーツトレーナー専門学校」廃校
2010(平成22)年 10月	文部科学大臣から「宝塚医療大学」設置認可
2011(平成23)年 4月	「宝塚医療大学」開学
2014(平成26)年 4月	「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2017(平成29)年 10月	教育研究事業に付随する事業として「宝塚医療大学附属介護ステーション」開設
2019(平成31)年 4月	「宝塚医療大学」に留学生別科を開設

	「トライデントスポーツ医療看護専門学校」を学校法人河合塾学園から経営移管、校名を「名古屋平成看護医療専門学校」に名称変更 「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程応用日本語学科を開設 「横浜医療専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2020(令和2)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部及び介護福祉別科を開設 「日本総合医療専門学校」を学校法人日本医科学総合学院との合併により開設
2021(令和3)年 3月	「和歌山看護専門学校」を公益社団法人和歌山県病院協会から経営移管

4 設置する学校

(令和3年5月1日現在)

学校名	学校長名	所在地・電話番号	認可年月日
宝塚医療大学 保健医療学部 理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科 留学生別科 介護福祉別科	岸野 雅方	〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷 緑ガ丘1 TEL：072-736-8600 〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島 2252 TEL：073-488-3644 〒531-0072 大阪市北区豊崎7-7-17 TEL：06-6374-6300 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 6-25-13 TEL：03-6458-3394	平成22年10月29日 令和元年8月27日
平成医療学園専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 東洋療法教員養成学科 文化・教養専門課程 日本語学科 応用日本語学科	北野 吉廣	〒531-0071 大阪府大阪市北区 中津6-10-15 TEL：06-6454-1500	平成13年3月30日
横浜医療専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科	富田 幸博	〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区 金港町9-12 TEL：045-440-1750	平成18年10月20日

文化・教養専門課程 日本語学科			
なにわ歯科衛生専門学校 医療専門課程 歯科衛生士学科	古郷 幹彦	〒530-0011 大阪府大阪市北区 大深町2-179 TEL : 06-6375-1400	平成20年12月2日
名古屋平成看護医療専門学校 医療専門課程 看護学科 理学療法学科 柔道整復学科 はり・きゅう学科 文化・教養専門課程 アスレティックトレーナー学科	高木 保子	〒464-0850 愛知県名古屋市千種区 今池1-5-31 TEL : 052-735-1608	平成31年3月4日
日本総合医療専門学校 医療専門課程 柔道整復学科	齋藤 貴司	〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 6-25-13 TEL : 03-5850-3500	令和2年1月16日
和歌山看護専門学校 医療専門課程 看護学科	岸岡 史郎	〒640-0112 和歌山県和歌山市西庄 1107-26 TEL : 073-456-5780	令和3年3月4日

5 学生数

(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
理学療法学科	70	64	91.4%
柔道整復学科	60	73	121.7%
鍼灸学科	30	25	83.3%
保健医療学部 小計	160	162	101.3%
リハビリテーション学科	100	101	101.0%
和歌山保健医療学部 小計	100	101	101.0%
合 計	260	263	101.2%

別科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
留学生別科（大阪豊崎・東京）	200	38	19.0%
介護福祉別科	60	22	36.7%
合 計	260	60	23.1%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	60	34	56.7%
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	30	5	16.7%
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	30	24	80.0%
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	30	17	56.7%
東洋療法教員養成学科	10	4	40.0%
医療専門課程 小計	160	84	52.5%
日本語学科 日本語1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 進学1.5年コース	60	82	136.7%
日本語学科 進学2年コース	60	0	0.0%
応用日本語学科 1年コース	40	20	50.0%
応用日本語学科 2年コース	20	13	65.0%
文化・教養専門課程 小計	220	115	52.3%
合 計	380	199	52.4%

(注1) 令和3年度から、日本語学科日本語1年コースを新設。

(注2) 日本語学科医療福祉系1年コースの入学定員を40名から20名に変更。

(注3) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和2年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復師科 昼間	60	64	106.7%
柔道整復師科 夜間	60	11	18.3%
鍼灸師科 昼間	60	57	95.0%
鍼灸師科 夜間	60	14	23.3%
医療専門課程 小計	240	146	60.8%
日本語学科 進学1.5年コース	0	0	0.0%
日本語学科 進学2年コース	20	0	0.0%
文化・教養専門課程 小計	40	0	0.0%
合 計	260	146	56.2%

(注) 日本語学科 進学1.5年コース (令和2年10月入学者) は募集なし。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
歯科衛生士学科 昼間	72	83	115.3%
歯科衛生士学科 夜間	36	37	102.8%
合 計	108	120	111.1%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
看護学科	40	40	100.0%
理学療法学科	35	26	74.3%
柔道整復学科 昼間部	54	23	42.6%
はり・きゅう学科 昼間部	60	39	65.0%
医療専門課程 小計	189	128	67.7%
アスレティックトレーナー学科	50	16	32.0%
文化・教養専門課程 小計	50	16	32.0%
合 計	239	144	60.3%

◆ 日本総合医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアⅠコース	30	23	76.7%
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアⅡコース	30	0	0.0%
合 計	60	23	38.3%

◆ 和歌山看護専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
看護学科	50	36	72.0%
合 計	50	36	72.0%

(注) 令和3年度に、和歌山看護専門学校を開設。

(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
理学療法学科	280	280	100.0%
柔道整復学科	240	260	108.3%
鍼灸学科	120	105	87.5%
保健医療学部 小計	640	645	100.8%
リハビリテーション学科	200	201	100.5%
和歌山保健医療学部 小計	200	201	100.5%
合 計	840	846	100.7%

(注) 令和2年度に、和歌山保健医療学部を開設。

別科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
留学生別科 (大阪豊崎・東京)	200	44	22.0%
介護福祉別科	120	46	38.3%
合 計	320	90	28.1%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	180	102	56.7%
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	120	32	26.7%
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	90	79	87.8%
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	90	58	64.4%
東洋療法教員養成学科	20	7	35.0%
医療専門課程 小計	500	278	55.6%
日本語学科 日本語1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 進学1.5年コース	120	82	68.3%
日本語学科 進学2年コース	120	0	0.0%
応用日本語学科 1年コース	40	20	50.0%

応用日本語学科 2年コース	40	27	67.5%
文化・教養専門課程 小計	360	129	35.8%
合 計	860	407	47.3%

(注1) 令和2年度から、柔道整復師科昼間Ⅱ部の入学定員を60名から30名に変更。

(注2) 令和3年度から、日本語学科日本語1年コースを新設。

(注3) 日本語学科医療福祉系1年コースの入学定員を40名から20名に変更。

(注4) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和2年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復師科 昼間	180	167	92.8%
柔道整復師科 夜間	180	60	33.3%
鍼灸師科 昼間	180	138	76.7%
鍼灸師科 夜間	180	38	21.1%
医療専門課程 小計	720	403	56.0%
日本語学科 進学1.5年コース	20	0	0.0%
日本語学科 進学2年コース	40	0	0.0%
文化・教養専門課程 小計	60	0	0.0%
合 計	780	403	51.7%

(注) 日本語学科 進学1.5年コース (令和2年10月入学者) は募集なし。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
歯科衛生士学科 昼間	216	237	109.7%
歯科衛生士学科 夜間	108	114	105.6%
合 計	324	351	108.3%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
看護学科	120	101	84.2%
理学療法学科	105	48	45.7%
柔道整復学科 昼間	162	31	19.1%
はり・きゅう学科 昼間	180	68	37.8%
医療専門課程 小計	567	248	43.7%
アスレティックトレーナー学科	100	25	25.0%
文化・教養専門課程 小計	100	25	25.0%
合 計	667	273	40.9%

(注1) トライデントスポーツ医療看護専門学校は、平成30年度に学生募集を停止。

(注2) 令和元年度に、名古屋平成看護医療専門学校を開設。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアⅠコース	90	82	91.1%
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアⅡコース	60	15	25.0%
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアコース 夜間部	30	18	60.0%
合 計	180	115	63.9%

(注) 令和2年度から、柔整スポーツ・ケアⅡコースを開設、柔整スポーツ・ケアコース 夜間部の学生募集を停止。

◆ 和歌山看護専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
看護学科	150	113	75.3%
合 計	150	113	75.3%

(注) 令和3年度に、和歌山看護専門学校を開設。

(3) 入学者数の推移

◆ 宝塚医療大学

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
理学療法学科	66	80	77	74	64
柔道整復学科	42	63	72	77	73
鍼灸学科	21	29	35	35	25
保健医療学部 小計	129	172	184	186	162
リハビリテーション学科	—	—	—	102	101
和歌山保健医療学部 小計	—	—	—	102	101
合 計	—	—	—	288	263

※ 令和2年度に和歌山保健医療学部を開設。

別科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
留学生別科（大阪豊崎・東京）	—	—	—	15	38
介護福祉別科	—	—	—	24	22
合 計	—	—	—	39	60

※ 令和3年度に留学生別科（東京）を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
柔道整復師科	69	53	66	46	39

鍼灸師科	54	47	45	54	41
東洋療法教員養成学科	1	0	0	4	4
医療専門課程 小計	124	100	111	104	84
日本語学科	71※1	92※2	103※3	29※4	82※5
応用日本語学科	—	—	21	26	33
文化・教養専門課程 小計	71	92	124	55	115
合 計	195	192	235	159	199

※1 進学1.5年コースの入学（平成29年10月入学生）29名を含む。

※2 進学1.5年コースの入学（平成29年10月入学生）29名を含む。

※3 進学1.5年コースの入学（平成30年10月入学生）33名を含む。

※4 進学1.5年コースの入学（令和元年10月入学生）29名を掲載。

※5 進学1.5年コースの入学（令和2年10月入学生）82名を掲載。

◆ 横浜医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
柔道整復師科	70	71	86	89	75
鍼灸師科	42	46	63	62	71
医療専門課程 小計	112	117	149	151	146
日本語学科	—	—	0	1※1	0
文化・教養専門課程 小計	0	0	0	1	0
合 計	112	117	149	152	146

※1 進学1.5年コースの入学（令和元年10月入学生）1名を掲載。

※2 進学1.5年コース（令和2年10月入学生）は募集なし。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
歯科衛生士学科	120	120	120	120	120
合 計	120	120	120	120	120

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
看護学科	29	—	38	31	40
理学療法学科	14	—	9	14	26
柔道整復学科	23	—	0	9	23
はり・きゅう学科	41	—	9	23	39
医療専門課程 小計	107	—	56	77	128
アスレティックトレーナー学科（旧トレーナー学科）	9	—	0	9	16
文化・教養専門課程 小計	9	—	0	9	16
合 計	116	—	56	86	144

※1 平成29年度～平成30年度は、旧トライデントスポーツ医療看護専門学校による実績。平成30年度は募集停止。

※2 令和2年度から、柔道整復学科及びはり・きゅう学科の夜間部、プロフェッショナルトレーナー学科の廃止。トレーナー学科からアスレティックトレーナー学科へ名称変更。

◆ 日本総合医療専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	16	23	30	30	23
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIIコース	—	—	—	22	0
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアコース夜間部	25	9	10	—	—
合 計	41	32	40	52	23

※ 平成29年度～令和元年度は、旧日本総合医科学専門学校による実績。

※ 令和2年度から、柔整スポーツ・ケアIIコースの開設、柔整スポーツ・ケアコース夜間部の廃止。

◆ 和歌山看護専門学校

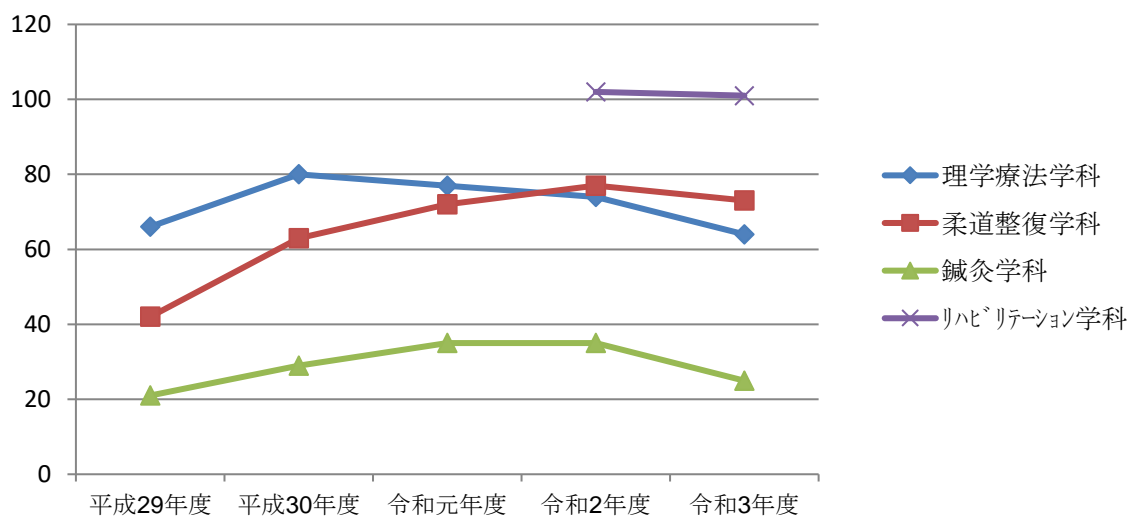
(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
看護学科	52	47	42	43	36
合 計	52	47	42	43	36

(注) 平成29年度～令和2年度は、旧和歌山看護専門学校による実績。

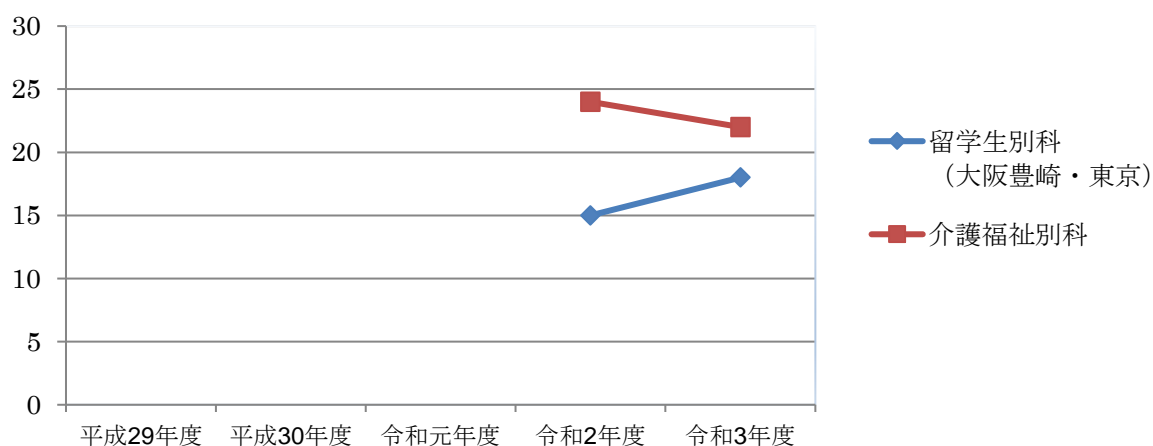
宝塚医療大学 入学者数の推移

(単位：名)



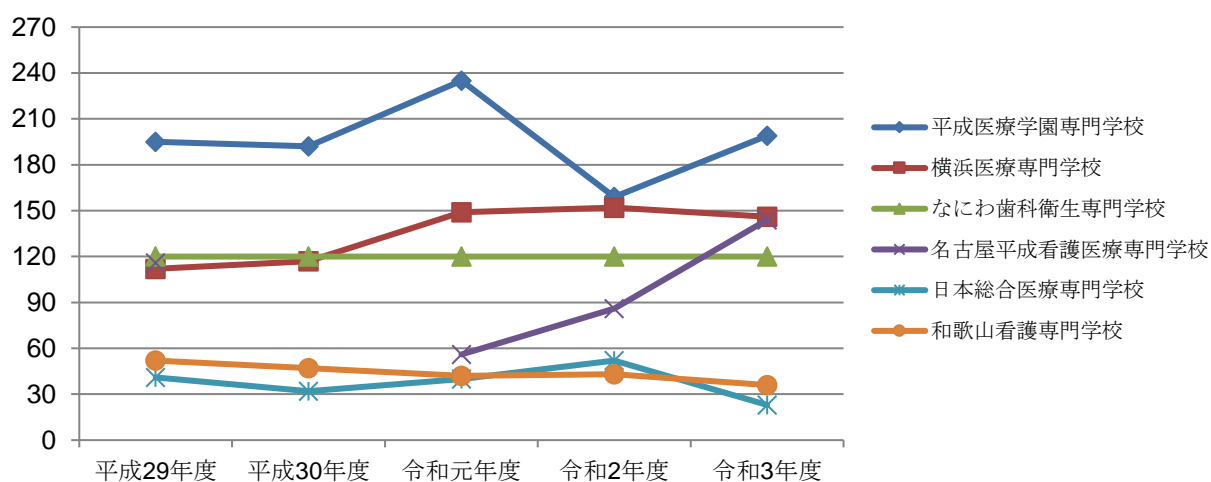
宝塚医療大学 別科 入学者数の推移

(単位：名)



各専門学校 入学者数の推移

(単位：名)



(4) 専任教員1人当たりの学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
理学療法学科	280	16	17.5
柔道整復学科	260	16	16.3
鍼灸学科	105	13	8.1
保健医療学部	645	45	14.3
リハビリテーション学科	201	19	10.6
和歌山保健医療学部	201	19	10.6
合計	846	64	13.2

(注1) 鍼灸学科専任教員には学長を含む。

(注2) 専任教員には助手を含む。

別科	学生数	専任教員数	専任教員1人 当たりの学生数
留学生別科（大阪豊崎・東京）	44	4	11.0
介護福祉別科	46	4	11.5
合 計	90	8	11.3

6 理事・監事・評議員

◆ 理事・監事（定数：理事 10 人以上 15 人以内、監事 2 人以上 4 人以内）

（令和3年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任 年月日	常勤/ 非常勤	主な現職等
理事長	1号	岸野 雅方※	H3.4.1	常勤	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
常務 理事	4号	岸野 政子※	R3.4.1	常勤	学校法人福寿会理事長
理事	2号	北野 吉廣	R3.4.1	常勤	平成医療学園専門学校校長
	3号	岡田 光司※	R3.4.1	常勤	なにわ歯科衛生専門学校統括長
		小原 教孝※	R3.4.1	常勤	宝塚医療大学教員・統括長
		中谷 裕之※	R3.4.1	常勤	平成医療学園専門学校統括長 オリエントメディカルサービス株式会社 代表取締役社長
	4号	浅谷 佐智子	R3.4.1	非常勤	株式会社エビススポーツマッサージ社長
		榊 典夫	R3.4.1	非常勤	宝塚医療大学教員
		塚原 康夫	R3.4.1	非常勤	全国柔整鍼灸協同組合事務局長 平成医療学園専門学校教員
		土江 直一	R2.4.1	非常勤	公益社団法人全国柔整鍼灸協会監事 学校法人福寿会理事
		吉田 洪先※	R3.4.1	常勤	横浜医療専門学校教員・統括長
	監事	—	吉田 明代	R3.4.1	常勤
—		永井 隆世	R2.3.1	非常勤	

（注）※印は常任理事会理事。

理事の選任（寄附行為第7条（抄））

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人が設置する大学の学長
- (2) この法人が設置する専門学校の校長のうちから理事会において選任した者 1人
- (3) 評議員のうちから評議員会において選任した者 2人以上
- (4) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 6人以上

◆ 評議員（定数：23 人以上 31 人以内）

（令和3年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任年月日	主な現職等
評議員	第1号	内野 勝郎	R3.4.1	宝塚医療大学教員
		小原 教孝	R3.4.1	宝塚医療大学教員・統括長
		岸野 佑宣	R3.4.1	横浜医療専門学校教員・副校長
		北野 吉廣	R3.4.1	平成医療学園専門学校校長
		高木 保子	R3.4.1	名古屋平成看護医療専門学校校長 平成医療学園専門学校統括長補佐
	第2号	岸野 庸平	R3.4.1	学校法人札幌青葉学園理事 札幌青葉鍼灸柔整専門学校教員

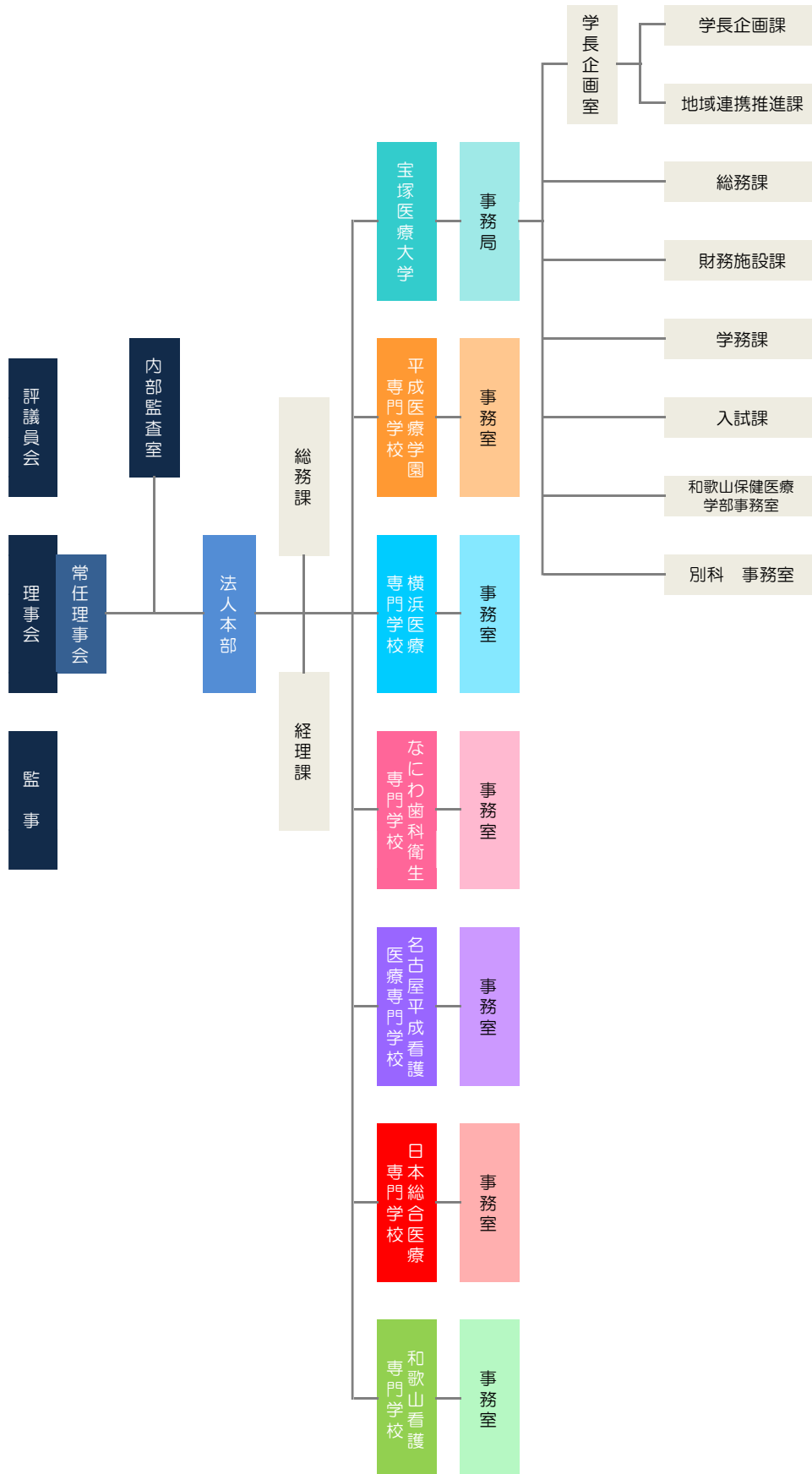
	清水 公美子	R3.4.1	しみず鍼灸院
	竹本 晋史	R3.4.1	平成医療学園専門学校教員
	西口 佐智子	R3.4.1	株式会社方円代表取締役 平成医療学園専門学校教員
	松本 尚純	R3.4.1	まつもと整骨院 まつもと鍼灸院 平成医療学園専門学校教員
第3号	浅谷 佐智子	R3.4.1	株式会社エビススポーツマッサージ社長
	岡田 光司	R3.4.1	なにわ歯科衛生専門学校統括長
	勝浦 政夫	R3.4.1	勝浦鍼灸院 勝浦接骨院 平成医療学園専門学校教員
	岸野 政子	R3.4.1	学校法人福寿会理事長
	岸野 雅方	R3.4.1	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
	榊 典夫	R3.4.1	宝塚医療大学教員
	佐原 道啓	R3.4.1	佐原整骨院 平成医療学園専門学校教員
	塚原 康夫	R3.4.1	全国柔整鍼灸協同組合事務局長 平成医療学園専門学校教員
	中谷 裕之	R3.4.1	平成医療学園専門学校統括長 オリエントメディカルサービス株式会社 代表取締役社長
	西尾 頼政	R3.4.1	ミツワ電機工業株式会社
	林 康蔵	R3.4.1	平成医療学園専門学校教員 林鍼灸・接骨院 経営
	平賀 修司	R3.4.1	日本総合医療専門学校 行政担当室 室長
	吉田 洪先	R3.4.1	横浜医療専門学校教員・統括長

評議員の選任（寄附行為第26条（抄））

第26条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人の職員のうちから評議員会において選任した者 5人
- (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上のものの中から理事会において選任した者 5人
- (3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 13人以上

(令和3年5月1日現在)



8 教職員数

(1) 教職員数

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	専任		非常勤者等	
	教員	職員	教員	職員
法人本部	0	15	0	2
宝塚医療大学保健医療学部	45	25	41	26
宝塚医療大学和歌山保健医療学部	19	9	38	1
宝塚医療大学留学生別科(大阪豊崎・東京)	4	4	5	0
宝塚医療大学介護福祉別科	4		10	
平成医療学園専門学校	27	24	60	2
横浜医療専門学校	30	15	26	2
なにわ歯科衛生専門学校	20	9	101	1
名古屋平成看護医療専門学校	36	11	127	4
日本総合医療専門学校	11	12	13	1
和歌山看護専門学校	9	3	89	0
宝塚医療大学附属介護ステーション	1	1	0	0
合計	206	128	510	39

(注) 専任教員には助手を含む。

(2) 年齢別専任教員数

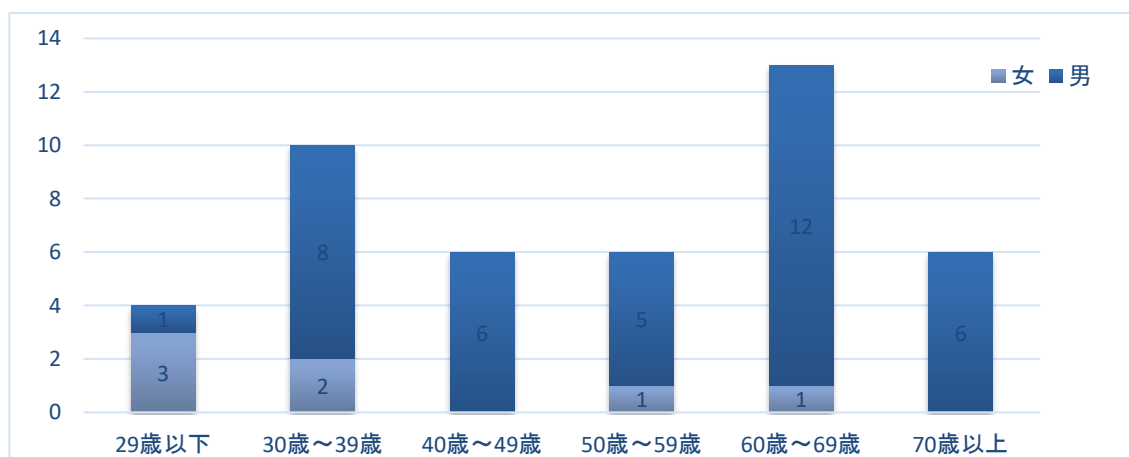
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	1	8	6	5	12	6	38
女	3	2	0	1	1	0	7
合計	4	10	6	6	13	6	45

年齢別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



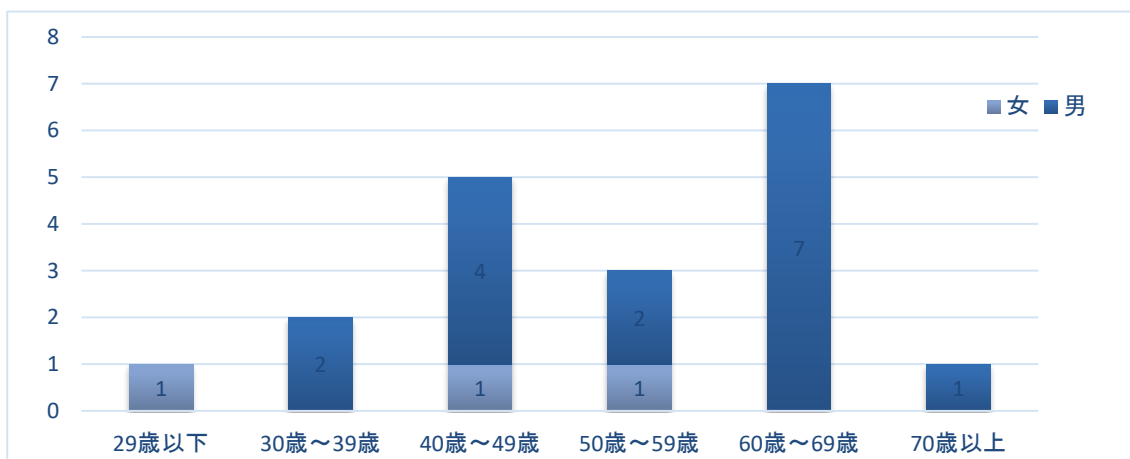
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	2	4	2	7	1	16
女	1	0	1	1	0	0	3
合計	1	2	5	3	7	1	19

年齢別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)



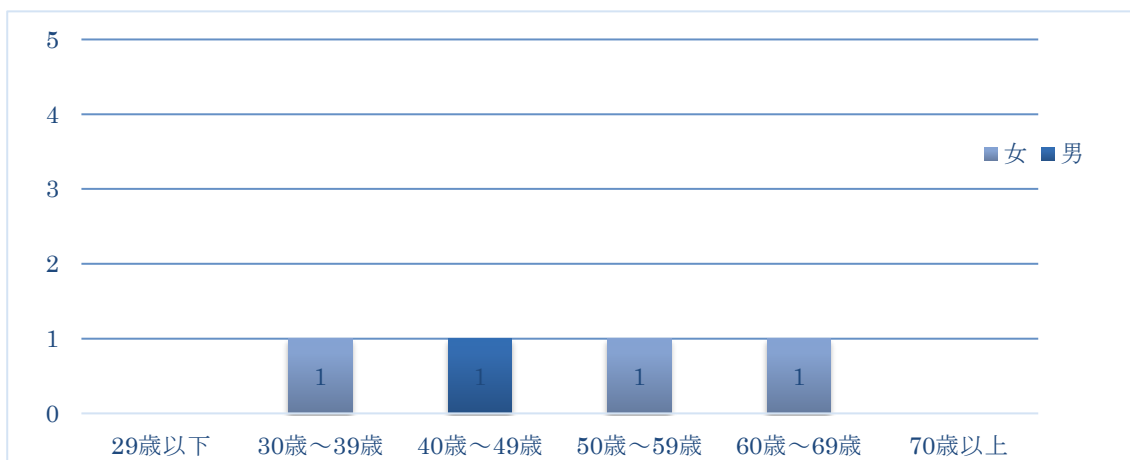
◆ 宝塚医療大学 留学生別科 (大阪豊崎・東京)

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	1	0	0	0	1
女	0	1	0	1	1	0	3
合計	0	1	1	1	1	0	4

年齢別留学生別科 (大阪豊崎・東京) 専任教員数

(単位：名)



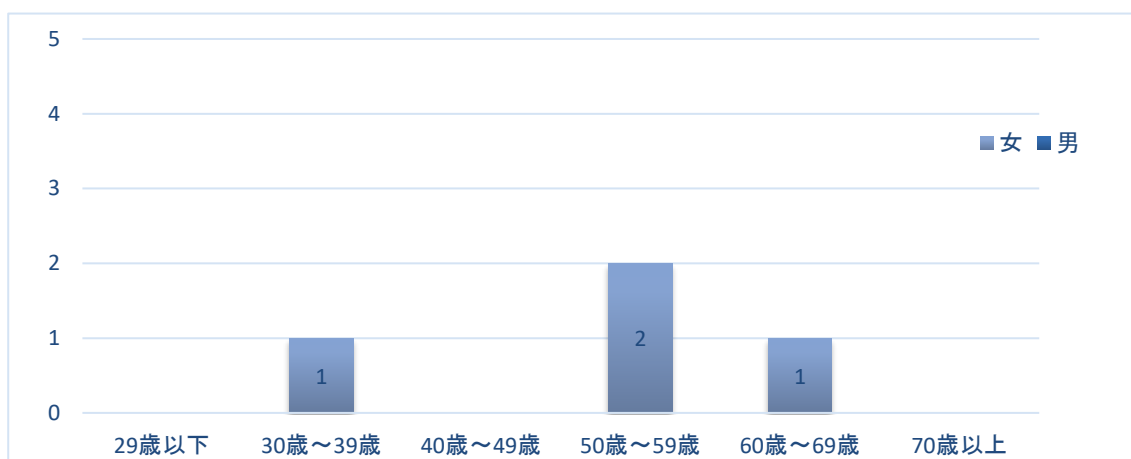
◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	1	0	2	1	0	4
合計	0	1	0	2	1	0	4

年齢別介護福祉別科専任教員数

(単位：名)



(3) 職階別専任教員数

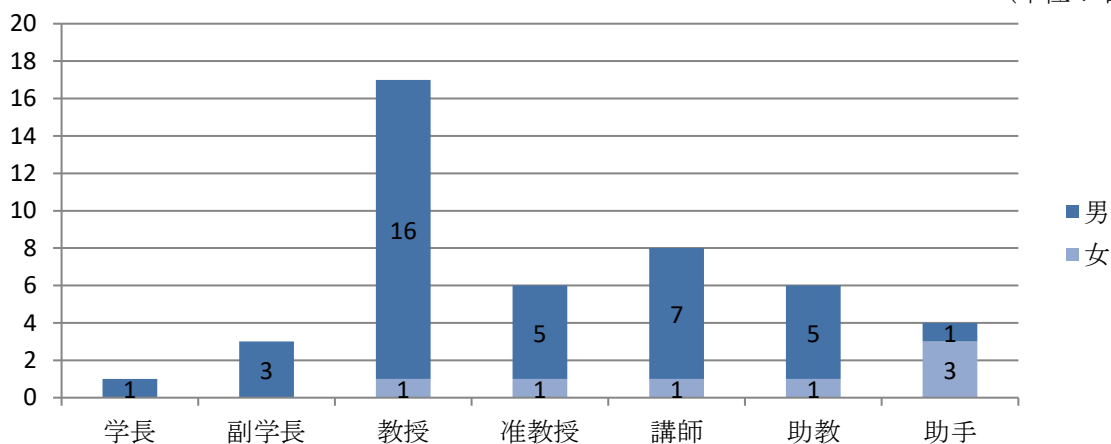
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	1	3	16	5	7	5	1	38
女	0	0	1	1	1	1	3	7
合計	1	3	17	6	8	6	4	45

職階別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



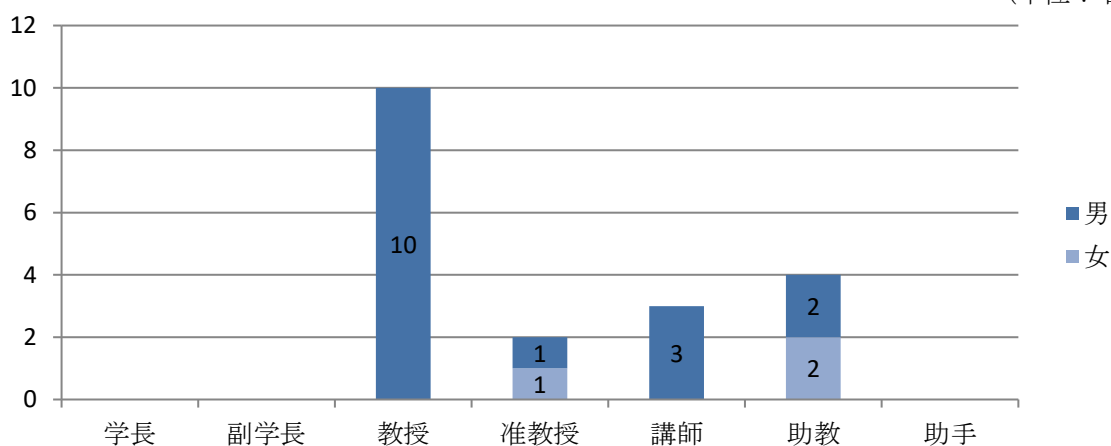
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	0	0	10	1	3	2	0	16
女	0	0	0	1	0	2	0	3
合計	0	0	10	2	3	4	0	19

職階別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)

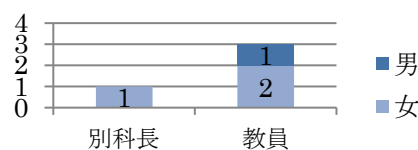


◆ 宝塚医療大学 留学生別科 (大阪豊崎・東京)

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	別科長	教員	計
男	0	1	1
女	1	2	3
合計	1	3	4

職階別留学生別科専任教員数 (単位：名)

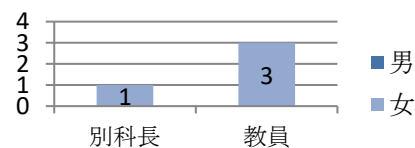


◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	別科長	教員	計
男	0	0	0
女	1	3	4
合計	1	3	4

職階別介護福祉別科専任教員数 (単位：名)



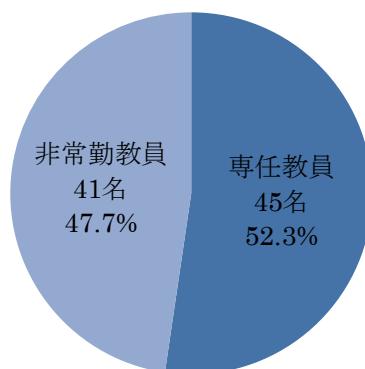
(4) 専任教員・非常勤教員比率

◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	45	52.3%
非常勤教員	41	47.7%
合計	86	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

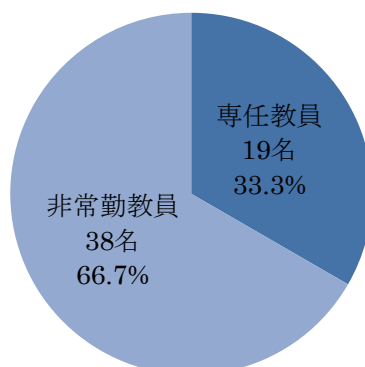


◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	19	33.3%
非常勤教員	38	66.7%
合 計	57	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

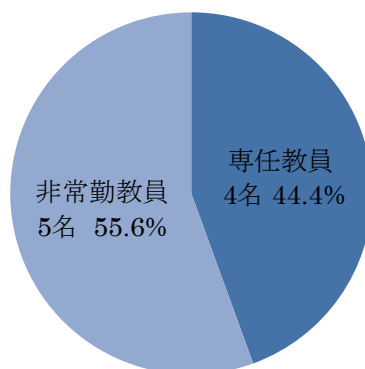


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪豊崎・東京）

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	4	44.4%
非常勤教員	5	55.6%
合 計	9	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

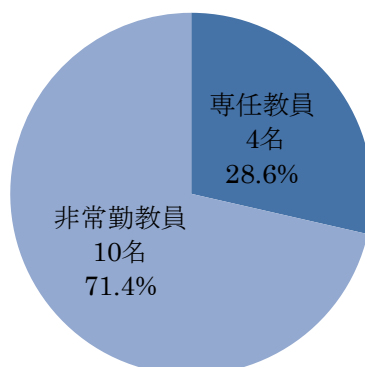


◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和3年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	4	28.6%
非常勤教員	10	71.46%
合計	14	100.0%

専任教員・非常勤教員比率



II. 事業の概要

1 基本的な方針

本学園は、教育研究体制の整備充実を図るとともに、教育内容のより一層の改善・充実や施設設備の整備等を行うことによって、多様な社会の要請に応える有為な人材の育成に努めます。また、少子高齢化の進展に伴う18歳人口の減少等の社会情勢の変化に的確に対応し、学園の円滑な運営を行い今後の更なる発展を期するために、入学者の確保や経営の効率化などにより財政基盤の着実な強化を図ります。

2 事業の実施状況

(1) 宝塚医療大学

① 入学者の確保

令和3年度学生募集においては、保健医療学部、和歌山保健医療学部、留学生別科及び介護福祉別科で以下の通り募集活動を実施しました。

【保健医療学部、和歌山保健医療学部】

本学での学びの特色を、ホームページの他、進学情報誌・サイト（媒体）により広く告知することにより、資料請求数は5,200件弱と前年（4,700件余り）を上回り、年々本学への関心の高まりが窺えました。

オープンキャンパスは、コロナ禍の影響を強く受けて、実施を見合わせた回があったこと、一部の高校で対面型オープンキャンパスへの参加を禁止したこと等を理由に、参加者数が大きく減少しました。高校生等（同伴者を含まない）の参加者数（のべ）は、宝塚キャンパスで351人（対前年49%、実施回数は7回）、和歌山キャンパスで328人（対前年130%、実施回数を前年の5回から8回に増設）という結果でした。この状況を受け、Web上でのバーチャルオープンキャンパスページを制作し、ホームページ上でキャンパスツアービデオ、360度VRを閲覧できるようにしました。

高校訪問も、コロナ禍により4～5月はほとんど活動できず、6月から漸次訪問数を増やしていきました。宝塚キャンパスは京阪神、中四国を、和歌山キャンパスは和歌山県、中四国を重点エリアとして、京阪神で680回、中四国で120回、和歌山県で40回訪問しました。とりわけ高校訪問活動は学校推薦型選抜（指定校推薦）の学生募集に寄与しました。

これらの取組の結果、令和3年度の入学者数は、宝塚キャンパスで保健医療学部 理学療法学科64名（充足率91.4%）、柔道整復学科73名（同121.7%）、鍼灸学科25名（同83.3%）、学部全体で162名（同101.3%）、和歌山キャンパスで和歌山保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻70名（充足率116.7%）、作業療法学専攻31名（同77.5%）、学部全体で101名（同101.0%）となりました。

【留学生別科、介護福祉別科】

留学生別科及び介護福祉別科については、外国人留学生の受入れを中心とした広報活動を実施しました。コロナ禍により海外の現地日本語学校等での説明会はできませんでしたが、オンラインで現地学生とコンタクトをとりました。また国内においては、介護留学生支援企業との提携、日本語学校へのアプローチを積極的に行い、国内留学生向けのオープンキャンパスを9回実施し参加者数は30人となりました。

これらの取組の結果、令和3年度の入学者数は、留学生別科（大阪豊崎キャンパス）18名（入学定員充足率18.0%）、留学生別科（東京キャンパス）20名（入学定員充足率20.0%）、介護福祉

別科（大阪豊崎キャンパス）22名（入学定員充足率36.7%）となりました。コロナ禍の状況で、特に留学生別科では入国制限の影響を強く受け、3科とも入学定員未充足となりました。

② 教育の充実

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、通学の自粛や、いわゆる3つの密を避ける方策、学生及び教職員の安全確保に関する対策などが実施され、教育の継続した提供が喫緊の課題となりました。

4月は緊急事態宣言を受け、当初予定していたオリエンテーション等も最小限に抑え、例年実施している新入生向けの宿泊研修を中止し、通学も自粛しました。5月のゴールデンウィーク明けからは、オンラインでの授業を実施しました。オンライン授業は通学による対面授業を再開した6月以降も継続して実施しました。また、学生・教職員の毎日の検温と体調管理、体調不良時の対応等について周知するとともに、感染症予防に関するマニュアルを作成しました。

保健医療学部の各学科の臨床実習に関しては、実習の実施が困難な状況がありましたが、学内施設での代替措置を行うなど、学生の単位修得、卒業判定に影響が出ないように、配慮しました。

附属図書館、食堂においては、密集状態にならないよう、席を間引くほか、パーティションの設置を行うなどの対策を行いました。

和歌山保健医療学部では、このような状況の中、第1期生の受入れを行い、保健医療学部理学療法学科では、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」の改正に伴う新しい教育課程での授業がスタートしました。

留学生別科においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、入国ができない状況が継続しており、本学別科に合格しながら通学できない状態となりました。こうした学生に対しては入学時期を柔軟に対応するなどの対策を行うとともに、オンラインでも面接等を実施しました。

介護福祉別科では、1期生の受入れを行い、授業がスタートしました。大学と連携しながら新型コロナウイルス感染症の感染対策を行い、オンライン授業の実施を含め授業を実施しました。

開学以来、継続して実施している授業評価アンケートについても、オンライン授業に関する項目を新たに設け、オンライン授業の教育効果について確認するとともに、教員にフィードバックを行いました。これらの取組を通して教員の教育力向上を図るとともに、授業評価アンケートの結果をわかりやすくまとめ、令和元年度の前・後期の授業評価アンケート全体の集計結果を教育情報として公表しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う対応など、例年になく対応が求められる年度となりましたが、教育の継続に注力しつつ、また社会の要請に応えるべく、新学部・新学科等の設置計画について、中期計画に基づき「学長企画室」及び「学長企画調整会議」で検討を進めました。

令和2年度から、新たにキャリア開発センター内に学修支援センターを設置しました。当該センターでは、令和2年度後期から事業を開始しました。主な取組として、1年次生を対象としたコミュニケーション能力向上のためのセミナー（全7回）を実施し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を図りました。また、本学の在学生在が下級生の学生生活や学修について具体的なアドバイスを行うピアサポート制度をスタートし、講義の空き時間などを活用して、基礎学力の向上などの取組を行いました。

③ 研究の充実

全学的な研究推進体制の下で、保健医療学部においては、統合医療及び予防医学に関する研究並びに基礎医学分野の科学研究を実施し、「理学療法学」に関する研究内容の充実を図りました。「柔道整復学」及び「鍼灸学」については、エビデンスを構築し、附属治療院の充実を図

り、特色ある研究の推進に努めました。また、超音波検査機器及び周辺機器を整備し、柔道整復学科を中心に軟部組織損傷の臨床例の研究に着手しました。

さらに、学内において研究成果発表会を定期的実施するとともに、宝塚医療大学紀要第7号を発行しました。また、「科学研究費補助金」等の公的研究費を獲得することを研究者個々の使命として位置づけて研究推進を図るとともに、研究推進委員会においてブラッシュアップを図りました。

学長裁量経費の新たな活用として、科学研究費助成事業に不採択であった研究を対象に、学内で選考を行い、大学として研究を支援する取組を行うことを決定し、令和3年度から実施することとしました。

和歌山保健医療学部では、地域でのリハビリテーション関連専門職の教育、研究を行うために、和歌山県立医科大学医学部と「高度リハビリテーション医療・医学教育・研究講座」を設置しました。具体的な活動について、今後更に協議を進めます。

④ 国家試験対策の充実

令和元年度の試験結果を踏まえ、各学科に設けた国家試験対策部会等において一層の教育内容の充実を図りました。具体的には、早期からの対策講義の継続的实施及び業者による模擬試験や姉妹校との合同模擬試験を計画的に実施し、試験結果の詳細な分析により、学生の弱点を把握し個々の学生の状況に合わせた綿密な指導を行い、学生の学習意欲の向上に努め国家試験合格率の向上を目指しました。これらの取組の結果、保健医療学部柔道整復学科及び鍼灸学科では、令和2年度の新卒者の国家試験合格率が全国平均を上回りました。

また、国家試験に合格できなかった卒業生に対しては、国家試験対策を行う「宝塚塾」を中心に継続的な支援を行い、入学当初の目標を達成できるよう卒業後の国家試験対策の体制強化に努めました。

⑤ 就職支援の充実

キャリア開発センターでは、医療人としての動機形成がなされるよう入学時に「大学生生活スタートアップマナー講座」を実施しています。また、継続して医療人としてふさわしい立ち居振る舞いができるよう「実習前医療接遇マナー講座」も適時実施しています。

さらに本学の卒業を控える4年生に対しては、就職先を斡旋するだけでなく、学生の不安を和らげ、学修と就職活動に対し意欲的に取り組めるように「就職ガイダンス」を実施しています。

そして、キャリア開発センターでは、担当教職員が適時学生に対する進路相談などの就職支援を行っています。同センターではコンピューターで求人情報が検索できるとともに、学科別に地域・業種・職種、事業所の特徴、求人票ファイルなどの情報を閲覧できるようにしています。

その他の支援内容としては、本学指定の履歴書に基づき、応募書類の作り方の指導を行っています。また、各学科に学生の就職委員を任命し、希望する学生への模擬面接の実施や見学及び面接官の体験などを通して面接指導をするなど選考試験対策を行っています。さらには学生の就職委員は学内就職説明会の開催・運営サポートも行い、就業意欲を全学生に波及させる役割を担っています。

学内での就職情報の提供として、合同就職説明会を開催しています。病院、クリニック、トレーニングジム、介護福祉施設、治療院等の医療人や人事担当者を招いて、直接本学の学生が面談できる機会を設けています。理学療法学科ではコロナ禍に対応するため、令和2年度から5クラスを編成するかたちで10月に4日間にわたり「on-line就職説明会」を実施しました。教職員が司会進行を担当し、80施設を招待し、実施しました。また、柔道整復学科及び鍼灸学科対象の就職説明会は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に施し、食堂や講義室を利用しながら

ら第Ⅰ部35施設、第Ⅱ部30施設を招待しました。この「柔道整復学科・鍼灸学科 学内就職説明会」の第Ⅱ部は「本学卒業生との懇談会」という形式で実施しました。結果は47名の卒業生が参加し、現在の仕事に関して忌憚のない情報を提供していただき、現役学生との懇親を深めることで学生の将来へ向けての動機形成の一翼を担うことができました。これらの参加施設の情報や卒業生からのメッセージは、3年生と4年生に配布するとともに、同センターでも閲覧できるように整理しています。

一方、学生の学びの状況や課外活動を含めた生活状況並びに希望進路等を把握するため、「学生個人シート」を学生に記入してもらい、教職員で学生をサポートし、さらに1年生には適性検査を受検してもらい、学生の能力やパーソナリティを参考にしながら、個々人のキャリア支援を行うなどキャリアサポート体制を強化しています。

さらにまた令和2年度より「学修支援センター」を開設、「基礎学力」や「専門的基礎学力」または「社会人としての基礎力」などを確かなものにするために、具体的にはプロジェクト型学習や上級生による個別指導、さらにはセンター相談員による支援業務などを行っています。

令和2年度の進路状況は、卒業生74名に対して就職した者は62名（83.8%）、進学した者は2名（2.7%）、その他10名（13.5%）となり、就職を希望する学生の就職率は98.4%となりました。

⑥ 社会貢献の充実

令和2年度は、毎年実施している兵庫県川西市との包括的な連携協定に基づくスポーツ大会へのボランティア派遣や地域自治会の講習会等について、いずれも新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止されることとなりました。

本学において毎年実施している地域住民を対象とした健康増進や生活習慣病対策など医療系大学の特色を活かした公開講座についても同様に開催を見合わせました。

高大連携事業の一環として、川西明峰高校3年生を対象とした「生涯スポーツ」の授業を、本学にて全9回実施しましたが、総合的な学習の時間「明峰の学び」については中止となりました。

このような状況にあっても、附属治療院においては、近隣住民の健康治療に貢献するとともに附属介護ステーションでは、機能訓練に特化した地域密着型通所介護事業を行い、地域福祉に貢献しました。また、附属保育園では、企業主導型保育園として、地域の待機児童の減少に貢献しています。これら附属施設においては、感染対策を充分に行った上で、運営を継続しました。

また、楽天ヴィッセル神戸株式会社との提携に基づくサッカーのクラブチームである「ヴィッセル神戸伊丹U-15」の本学グラウンドでの夜間練習については安全に配慮しながら適宜実施しました。

⑦ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和元年に策定した中期目標の1年目に当たる令和2年度は、「使命・目的等」、「学生」、「教育課程」、「教員・職員」、「内部質保証」の各項目について現状の把握、計画実施に向けた準備を行う予定でした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う対応に大きく時間を要したことから、一部の計画については未着手の項目があります。一方で教育におけるICT活用などについては、実施が進みました。

中期計画に関して、自己点検・評価を通して進捗を確認し、適宜修正を行います。

⑧ 大学機関別認証評価結果への対応

令和2年7月に、公益社団法人日本高等教育評価機構に対して、平成29年度に受審した大学機関別認証評価において改善を要する点として指摘があった事項に関する改善報告書を提出し

ました。

当該報告書に基づき、令和2年12月に改善報告に対する審査の結果について、改善を要する点について改善が認められ、特に所見はない旨、同機構から通知がありました。

これを以て、平成29年度に受審した大学機関別認証評価に関する対応は完了しました。

今後、次の受審に向け継続的に自己点検・評価を実施し、受審の準備を進めます。

⑨ 企業主導型保育園の運営

平成29年度に開設した企業主導型保育園の運営に関して、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令などにより、4月上旬から5月末までの間は大きく利用者が減少しましたが、6月以降は徐々に利用者が増加し、10月以降は概ね前年と同程度の利用者数で推移しています。

社会的な緊張が高まっていた中で、地域の待機児童問題の解決の一助としての附属保育園として一定の機能を果たせたと考えます。

⑩ 宝塚医療大学附属介護ステーションの運営

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、日常とは異なる影響を受けました。しかしながら、緊急事態宣言が発出された中でも利用者様のご要望に沿うべく、消毒・換気・手洗い・うがい等を徹底し感染防止に勤めながら一日も休業することなく営業を続けました。

また、近隣の事業所の閉鎖により利用者数が増えたこと、機能訓練指導員（柔道整復師）のスタッフを増員したことにより、個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱ及び事業所評価加算などの追加加算が取れるようになり利用増に繋がりました。

なお、コロナ禍ではありましたが、感染防止に勤めながらも前年度に引き続き3回程度、姉妹校の臨床実習生の受入れなど教育分野での協力も行い、大学附属施設としての機能を果たしました。

⑪ 和歌山保健医療学部について

新学部設置に伴う履行状況等調査について、令和2年5月に報告書を文部科学省に提出し、令和3年3月に文部科学省のホームページで履行状況等調査の結果について公表され、本学は、特に指摘事項は付されませんでした。

今後も適切に設置計画を履行します。

⑫ 留学生別科・介護福祉別科について

留学生別科については、令和2年度から大阪豊崎キャンパスで学生の受入れを行っており、東京キャンパスでは令和3年度からの学生受け入れに向け、準備を進めました。2つの拠点での学生確保を行うため、外部のエージェント等を活用しながら活動を行いました。留学生別科への入学を希望する者は一定数ありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限があり、合格後も入国できない状況が続きました。入学希望者及び合格者に対しては、オンライン会議のシステム等を利用して、面接や面談を行いました。このような状況を鑑み、入学時期については、柔軟に対応できるよう配慮することとしています。

介護福祉別科については、令和2年度から新入生の受入れを始めています。1期生は、24名を受け入れ、全て外国人留学生でした。介護人材の養成に伴う補助金などを活用し、学生負担を軽減する方策を行うなど、入学生確保に努めました。また、令和2年度は留学生の多くが入国できない状況であったことから、令和3年度入学生の確保に苦慮することが予想できたため、姉妹校の留学生学科との連携を行うこととし、一層学生確保に努めました。

⑬ 新学部・新学科等の設置計画について

新学科等の設置計画に関しては、和歌山保健医療学部看護学科については令和3年3月に文部科学省に設置認可申請書を提出しました。また、社会福祉別科（仮称）に関しては、令和3年3月に近畿厚生局に養成施設の設置計画書を提出しました。これらの新規事業に関する申請はいずれも所轄の官庁に受理されました。

また、並行して計画を進めている観光系の新学部については、宮古島市との連携について、協議を進め、地元への説明会を実施するなど、市との連携に基づく新学部等の設置に向けて協議を進めました。

兵庫県尼崎市の若葉小学校跡地を利用した口腔保健学科（仮称）の設置準備に関しては、設置準備室で教育課程等の案を作成するとともに、工事計画に関する計画など具体的な内容に着手しています。

⑭ 施設設備の整備

令和2年度は、令和2年度私立学校情報機器整備費（遠隔授業活用推進事業）補助金（第一次補正予算分）の選定を受け、電子ホワイトボード及び授業収録機器を宝塚キャンパス、和歌山キャンパス、大阪豊崎キャンパスにそれぞれ導入し、ICTを活用した遠隔授業に活用できるよう整備を行いました。

和歌山キャンパスにおいては、設置計画に関する機器備品及び図書等について、順次整備を行いました。

また、超音波検査機器及び周辺機器を整備し、柔道整復学科を中心に軟部組織損傷の臨床例の研究や、授業への導入を進めました。鍼灸学科ではもぐさ燃焼解析システムを、理学療法学科では新たな電気刺激治療装置の購入など、教育研究に使用する機器等について計画的な導入を行いました。

⑮ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

全国柔整鍼灸協同組合との連携協力については、例年実施している4年次生を対象とした柔道整復や鍼灸に関する業団説明会を実施しました。

また、柔道整復学科と鍼灸学科においては、正課授業の一部において、オムニバスで健康保健を取り巻く環境や業界の今後の展望について、同組合の理事が講義を担当しました。臨床の現場に直結した貴重な講義を行うことができるのは、業界団体を母体とする本学の強みであり、今後もこうした取組を進めていきます。

⑯ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策は、大きく学生及び教職員の安全確保と、感染対策としてのオンライン授業の実施の2つの取組を行いました。

学生・教職員の安全確保については、毎日の検温を行うこととし、毎日の体調と体温を記録する、体調不良者などの情報については、教員全体で情報を共有することとしました。

教職員、学生用のマニュアルを作成し、ホームページや学生ポータルサイトで徹底した感染予防対策について周知を図りました。

令和2年5月からは、全ての授業科目をオンライン開催しました。保健医療学部ではオンライン授業の開催に当たって、あらかじめ全ての学生に情報機器の所有状況などに関するアンケートを実施しました。オンライン授業の実施に当たって、情報機器を所有していない、接続回線に不安があるなどの理由がある学生に対しては、情報機器の貸し出しの他、附属図書館での受講を認めるなど、学生の状況に合わせた対応を行いました。

令和2年6月からは、通学、対面授業を再開しました。1年間を通して一部オンライン授業を取り入れながら学内での感染対策を行いました。

学内の主要な教室等のアルコールによる清拭を行い、附属図書館及び食堂においては、卓上にパーテーションを設置するなどの対策を行いました。また、いわゆる3つの密を避けるため、館内の換気をこまめに行うとともに、ゆとりのある教室使用を行うほか、クラスを分割した授業の実施を行うなど、授業運営上の工夫を行いました。

留学生別科においては、入学試験に合格しながら入国できない状況が長く続きましたが、逐次オンラインでの面接を実施するなどの対応を行いました。

これらの他、学園祭、スポーツ大会、各種ボランティア活動、課外活動などについて、状況に応じて活動の自粛を行い、感染拡大防止に努めました。

これらの取組の結果、令和2年度中に本学教職員で新型コロナウイルス感染症に罹患した者は発生しませんでした。

(2) 平成医療学園専門学校

① 入学者の確保

定員充足に向け、本校の主な入学対象者となる大阪・兵庫・京都エリアの高等学校への訪問を強化し、進路指導担当教諭及び担任教諭・各クラブ顧問への認知向上に努めました。

また、校内ガイダンスや会場ガイダンスへの積極的な参加を試み、高校生へ直接本校の特長や教育内容を伝えるとともに、分野及び本校の認知向上を継続しています。

コロナ禍の中、来校者が減少傾向にあったオープンキャンパスでは、参加者に対して本校の特長を生かしたスポーツトレーナーや美容分野をテーマに満足度を上げる実技体験ができる、参加型授業や入学試験説明・保護者ガイダンス・個別相談会を実施し、参加者の出願率向上を図りました。社会人に対しても、柔道整復師、鍼灸師及びスポーツトレーナーという職業について、より踏み込んだ現実味が感じられるような内容の各種学内イベントやセミナー等の展開を試みました。今後も更に、高校生・社会人の受験ターゲット層に向けた共通戦略として、柔道整復師、鍼灸師、スポーツトレーナーという職業についての認知度向上を図るべく、本校教育における特色である『スポーツトレーナー教育』や、その成果としてスポーツ業界で活躍している卒業生の姿を、より効果的に紹介していきます。

ホームページや学校案内パンフレットについては、統一性のあるイメージに基づいた新たなブランディングを構築中です。さらに、全国柔整鍼灸協同組合が母体であること、高校生・社会人が安心して通いやすい環境であることのPRに努めます。

学生獲得実績としては、医療専門課程の入学者数合計が、84名（入学定員充足率52.5%、昨対比△20名）。学科別内訳は、柔道整復師科の入学者数が、39名（同比率43.3%、昨対比△7名）、鍼灸師科の入学者数が、41名（同比率68.3%、昨対比△13名）、東洋療法教員養成学科の入学者数が、4名（同比率40.0%、昨対比0名）という結果となりました。

文化・教養専門課程 日本語学科では、例年、現地で広報活動及び面接を実施し、各日本語センター、留学生紹介センターとの関係性の構築を図り、入学生の確保と学生の質の向上に努めています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月生までは例年通りの広報活動が行えましたが、令和2年10月生以降、海外への渡航が不可であること、また、入学者の入国時期が未定な状況等により、積極的な広報活動を行うことができませんでした。

応用日本語学科でも、会場型学校説明会の参加を予定しておりましたが、同じく感染症の影響により中止が相次いだため、動画配信による学校紹介の企画に参加しました。また、令和2年度は、校内での学校説明会を実施しました。

② 教育の充実

令和2年度は全学年が新カリキュラムとなり、新カリキュラムの完成年度となりました。新

新型コロナウイルス感染症の影響で、施術所での実習は行うことができませんでしたが、柔道整復師科では、スポーツ現場での臨床実習にて1年生から3年生を縦割りにしたチームを編成し、チームごとに実習を行うことができました。下級生は上級生を見て学び、上級生は下級生を指導する事で自身の成長に繋げることができました。特に新型コロナウイルス感染防止対策として、消毒を徹底的に教育し、実践できたことは、外部の方々からも評価いただきました。鍼灸師科は、附属施術所を中心に少人数制で実習を行いました。また、「教育課程編成委員会」でご意見をいただいた考察と評価を実行する実習ができたことと自己評価しております。

1年次の基礎医学は3年間を通して学ぶ科目でもあり、苦手とする学生が多い事から、ゼミや補習を開催し、学力の向上に努めました。特に「高等教育の修学支援新制度」を利用している学生については、成績不振となった際に支援が打ち切られる可能性があるため、ゼミや補習への参加を促し、成績の維持及び向上に努めました。

緊急事態宣言解除以降、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で、全ての授業を対面式で行いました。3年生の国家試験対策として、成績不良者に対してはチューター制を導入し、学力の底上げが図れたことで国家試験の合格率が良好となりました。

その他、柔道整復師養成指定規則におけるカリキュラムに「医用画像の理解」が組み込まれており、グループ校間で超音波観察装置症例検討会をリモートで実施し、教員の資質向上を図りました。また、本校の特色である現役の臨床家による実技授業や、臨地実習も引き続き行い、柔道整復師及び鍼灸師として、施術所やスポーツトレーナーの現場に必要な知識や技術を修得するための実習現場の確保も行いました。

加えて、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者養成講習会講習試験免除適応コース（共通科目Ⅰ・Ⅱ）の認定講座、公益社団法人日本アロマ環境協会の「アロマセラピーアドバイザー資格」と「アロマセラピーインストラクター」、「アロマハンドセラピスト」認定講座、さらに、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会の「公認障がい者スポーツ指導員（初級）」の認定講座も引き続き開催し、教育の充実を図りました。

③ 国家試験対策の充実

鍼灸師科、柔道整復師科における新卒者の国家試験合格率は鍼灸師科のはり師97.7%、きゅう師100%と今回も高い結果となりました。柔道整復師科では2年連続で新卒者の全国平均を下回っていましたが、今回は93.8%と全国の新卒者平均合格率85.6%を上回る事ができました。

両科ともグループ校との合同模擬試験や学内実力テストを分析し、それに基づく指導も同様に行いました。国試対策委員と3年生担任が試験ごとに意見交換を行い、3年生の学修到達度とその傾向を把握・分析し、教育内容にフィードバックすることで、更なる教育の質的向上を図りました。また、成績不良者には、集団面談や個別面談、保護者面談を実施して、私生活の見直しに至るまで指導し、学習環境の改善に取り組んできました。問題数の多い解剖学や生理学については、夏から暗記練習の取組を行い、学力向上に繋がったと考察されます。鍼灸師科にて以前から導入されていたチューター制を、柔道整復師科でも導入し、成績の底上げを図ることができました。

今後も、学生個々に合わせた指導方法を見出して、やる気を引き出しながら指導していく必要があると考えます。不足している自学・自習スペースの確保など、教育環境の更なる充実を図るとともに、個別指導を強化し、国家試験合格率の更なる向上を目指します。

④ 就職支援の充実

医療専門課程では、キャリアサポート室にて各企業からの求人票を教職員に共有し、精査しています。さらに、各担任を通じて、学生個々の進路状況を把握・分析し、学生と求人元のミスマッチが起らないよう、細やかなサポートに努めました。

また、学生の就職活動を支援する為、全国柔整鍼灸協同組合に属する施術所を招き、学内合

同企業説明会を実施しました。説明会への参加対象者を全学年に設定したことで、早期就職活動の意識付けならびに在学中のアルバイト勤務を促進することができました。また、多様な企業と接触できるよう、外部事業者等が主催する業界就職支援事業の案内も随時行いました。

文化・教養専門課程 応用日本語学科では、就職を希望する学生には、就職説明会の案内を行い、教員自ら説明会会場までの引率・サポートを行いました。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

新型コロナウイルス感染症の影響下での教育は、学校にとっても、学生にとっても大変厳しいものでした。しかしながら、オンライン授業実施のために、新しいツール（Office365）を導入し、それを使つての教育や、従来から利用してきたグループウェアやWEB会議システムの更なる効果的且つ効率的な利用など、厳しい状況下においても、中期計画に掲げていた「情報システムのより効果的・効率的な運用」という目標を達成することができました。

就職については、教職協働によるキャリアサポートにより、就職率は高いものとなりました。また、文化・教養専門課程における進学希望者の進学率は100%となりました。柔道整復師科、鍼灸師科の国家試験については、両学科ともに合格率100%には届きませんでした。90%以上の合格率となりました。就職・進学・資格取得など、学修成果の目標については、概ね達成することができました。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、学外での活動が制限され、ボランティア活動や社会貢献活動などは、ほとんど行えませんでした。

新型コロナウイルス感染症の影響による不安定な社会情勢が、いち早く落ち着くことを祈るとともに、そのような状況下でも本校ができる社会貢献活動を模索していきたいと考えます。

⑥ 日本語学科の充実

日本語学科においては、定員数の増加に伴い、新規教員を2名採用し、新入生の対応をする教員3名、2年生で進路等を担当する教員3名を配置する体制を整えました。新型コロナウイルス感染防止対策として休講となった際は、課題を配布し、対面授業再開後、授業内でのフィードバックを行いました。また、新入生については、新型コロナウイルス感染防止対策として、入国後2週間の隔離が必要となりましたが、隔離先（滞在場所）の確保、健康管理、食料の配布等の生活面のサポート及び課題による学習サポートを実施しました。

⑦ 応用日本語学科の充実

応用日本語学科においては、各担当教員と授業内容について相談し、令和元年度の学生の意見を反映しつつ、授業内容を相談し、シラバスの作成に取り組みました。授業アンケート、学生面談を行い、学生の意見やニーズを受け、教員の指導及び令和3年度への取組の資料としました。

⑧ 施設設備の整備

第1校舎受水槽や、第2校舎給湯器及び給湯配管など、不具合が発生している設備を優先して整備しました。また、学内の複合機の入替えを実施しました。これまで、学生用の複合機については、モノクロ印刷しか対応できていませんでしたが、入替えを期にカラー印刷に対応できる機種に入れ替えました。

その他、校舎内の無線化やプロジェクター入替えの検討を進めました。

⑨ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

柔整・鍼灸業界のあらゆるニーズに応え全国展開し30余年の歴史を誇る厚労省認可団体であり、かつ本校の設立母体でもある全国柔整鍼灸協同組合（以降、「全柔協」という。）と設立当

初より様々な形で連携体制をとっています。

全柔協や関連団体である大阪府鍼灸マッサージ協同組合と連携し、柔道整復療養費、はり・きゅう療養費の取扱いに関する授業を毎年度、実施しています。令和2年度においても新型コロナ禍中ではありましたが、前述の両団体から講師をお招きし、療養費の正しい療養費の取り扱いや不正請求の実態、施術管理者の要件等について授業を実施できました。しかしながら、両団体の会員施術所における臨床実習は、当初の計画では実習受け入れ施術所件数を増やしたにも関わらず、新型コロナウイルス感染防止の観点から、実習先の施術所内のソーシャルディスタンスの問題や学生受け入れに対する患者理解を得ることが困難として、全ての予定されていた実習を行うことができませんでした。

⑩ 新型コロナウイルス感染症対策について

本校の第1校舎、第2校舎は、外気を多く取り込むことができる構造であり、加えて窓や扉の開放を行っており、換気状態は良好です。また、『新型コロナウイルス感染症対応マニュアル』を作成し、学生への指導や、基本的な感染症対策の実施を行い、集団感染のリスク及び重症化のリスクの高い学生への対応方法等については教職員間で情報共有しました。

緊急事態宣言中はMicrosoft Teamsを利用したリモート授業を行いました。授業動画をアップし学生に視聴させ、課題を提出させました。宣言解除後は、新型コロナウイルス感染防止対策として、学生のマスク着用や手指消毒、検温、健康管理シートへの記入を徹底して実施しました。また、体調不良者は躊躇なく担任に連絡し、指示を仰ぐように指導しました。教室では教壇と最前列の座席との距離を2mとり、学生の座席は前後左右1mの間隔とし、3密とならないように配置しました。加えて、グループワークなどは行わず、一方向を向いたままで授業を行いました。実技授業は6月から11月までの半年間で全てを終えることができるように時間割を組み直して実施しました。これは実技をリモートで行うことは教育的効果が担保できないため、感染防止対策を充分に行った上で、比較的温かい時期に行うことで感染を起こさないようにと考へ行ったものです。実技授業での感染症対策としては、マスクの着用と併せてフェイスシールドまたはゴーグルの装着も必須とし、こまめな手指消毒とベッドや椅子、備品の消毒作業を行いながら実施しました。

本校の全課程の学生は、午前と午後で入れ替わるために食事を取る学生はほとんどいません。但し、学校で食事をする際には、食事中の会話は禁止し、食事後は直ぐにマスクを着用して、飛沫の飛散防止をするよう指導しています。さらに、学生には不要不急の外出を控え、3密となる施設への立ち入りやイベントには参加しないように指導しました。

(3) 横浜医療専門学校

① 入学者の確保

令和2年度に策定した中長期計画に則り、「広報戦略」を策定し、令和3年度の入学者目標を明確に定めた広報活動を実施しました。

高校生については、コロナ禍による一回目の緊急事態宣言期間中は県内の入学実績のある高等学校の進路指導担当者を対象としたオンライン訪問を実施し、宣言終了後は重点的に対面による訪問活動を実施しすることによって信頼関係の構築を図りました。

また高等学校や業者が実施するガイダンス等へ積極的に参加し、出張授業や他校との違いを明確化した学校説明を実施することによって本校イベントへの参加に繋げることができました。

社会人については、重点訪問先を①本学卒業生が開業・勤務している接骨院・治療院、②臨床実習受け入れ施設、③就職相談会に参加実績のある接骨院・治療院等、④同窓会会員に定め紹介による入学者の増加を図ることを計画していましたが、コロナ禍により訪問活動に大きな制

約が生じるなど計画が十分に遂行できたとはいえない状況となりました。

その改善策として緊急事態宣言解除後、早期に社会人に特化した夜間学校説明会を複数回実施しました。

オープンキャンパスでは、本校の特徴をいかし、実践に即した実技が体験できる参加者体験型授業や学生スタッフとオープンキャンパス参加者とがコミュニケーションを取ることができる時間を十分にとり、満足度の高い学校説明会を実施するとともに、施術現場の雰囲気等の体験を通して参加者の出願率の向上を図りました。

ホームページとパンフレットについては、「YOKOHAMA」という地域性をいかし、明るく、洗練されたイメージを前面に出したイメージの構築を図ります。また、媒体業者に出稿する原稿についても同様に統一感のあるデザインを採用し、高校生や社会人に受け入れられやすいイメージ戦略を推進しました。

日本語学科では、オンラインシステムを活用した募集活動を通じ、希望者にとって安心して留学できる環境を整えることに注力しました。また募集対象地域としてはベトナムやモンゴル、ネパールといった比較的新型コロナウイルス感染症による影響の少ない地域に絞り、募集活動を実施しました。

② 教育の充実

建学の理念は、「平成医療学園 建学の精神」に則り、本校では、「人間の尊厳・生命や社会の原理に関して深く理解し、他者を尊重できる品格と裁智を持って、積極的に臨床教育・臨床研究活動に取り組むことができる人材」の教育を目指し、試験合格を最終ゴールとせず、卒業後も継続して学び、将来国際社会で活躍できる「成熟した人材」の育成を目指しました。

教育目標では、豊かな人間性を育むために、分野を超えた幅広い教養、高い倫理観、コミュニケーション能力、理論的思考力、臨床教育・臨床研究・国際貢献を実践できる能力を持った医療専門職・国際的人材の育成を目指しました。

そこで、3つの方針（ポリシー）を掲げる、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）では、柔道整復師科・鍼灸師科では、学位授与方針を実現するため、3年間の教育課程を「基礎分野」・「専門基礎分野」・「専門分野」及び「応用分野」等の分野群に分け、段階的、系統的に教育できるよう各科目を設定しました。修学の成果は、修学期間内に修得すべき知識・技術レベルを明確にし、講義参加時の積極性や出欠席を含めた授業態度のほか、到達目標に向けた自らの研鑽と成果によって、客観的に到達度を評価しました。

職業実践専門課程として教育内容の更なる充実を進めました。

新カリキュラムの完成年度を迎え、「臨床実習」「統合教育」「総合領域」の授業を見直し、更に現場で即戦力として活躍できる高度専門医療人を育成するためにカリキュラムを展開しています。

また、超音波画像観察装置を10台設置しました。令和3年度は、これらの機材を活用し、充実した授業の展開に取り組めます。

令和2年度は、複数の教員が一人の学生に対し、きめ細やかな対応を行うことで、充実した学生生活の実現をサポートする「学年担任制」を導入し、退学率を大幅に抑えることに成功しました。令和3年度も「学年担任制」の継続を図ることで退学率の減少に努めます。

また、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響もあり、本校もオンライン授業の必要に迫られたので、校内でのWi-Fi環境の整備と全学生の自宅での通信環境整備の依頼をし、図らずも「授業のICT化」が実現しました。この学生・学校双方の通信環境整備を令和3年度でもあらゆるシーンで活かしていくとともに、学習支援や授業内容の効率化、さらにはオンラインでの面談など、教員と学生とのコミュニケーションの充実も図ります。

教員においては、附属治療施設を活用した臨床研修の研鑽、内部研修会、外部勉強会への積極的な参加、研究論文・報告集の発刊などに取り組むとともに、学生と教員の視野を広げるこ

とができるような企画を計画しました。

学生の海外研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で見送りましたが、新型コロナウイルス感染症の終息後、順次再開できるよう取り組みます。また同時に、教員対象のフィリピンDe La Salle Medical and Health Sciences Institute (DLSMHSI) での研修企画も新型コロナウイルス感染症の終息を目途に再開します。

文化・教養専門課程日本語学科では、日本で学びたいという意欲のある海外の学生に対し、希望する高等教育機関への進学をサポートします。

③ 国家試験対策の充実

令和元年度の国家試験結果を詳細に分析し、戦略の見直しを行いました。

両学科においては、令和2年度の出題基準の改定に伴い、問題数や出題傾向の変化に対応するため最新の情報収集や予想問題の作成など、出題基準の変化に対応できるような取組を進めました。また、両学科ともに「国家試験塾」を令和2年度も開設し、在校生の成績不良者や既卒受験生に対してもサポートしました。国家試験が難化する傾向にあることを踏まえ、1、2年生から国家試験に対するアプローチを実施しました。

定期考査（期末試験）の在り方とその難易度について、常勤教員のみならず非常勤教員ともその摺り合わせを実施しました。令和2年度に開発したオンライン教材を見直し、国家試験対策コンテンツとしての活用と充実を図りました。

④ 就職支援の充実

令和2年度では、新型コロナウイルス感染症対策のため事業者と学生との対面での就職相談会は中止とし、代わってオンラインによる就職支援計画を就職対策委員会が中心に取組を進めました。この中でも、就職率向上と卒業後の進路の把握が可能な仕組みを構築しました。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

本校は、令和2年度～令和6年度までの5年間について、建学の理念等と学園運営の基本的考え方に基づく中期計画の実現の第一歩を策定しました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各項目が進むべき方向性を具体化し、実現を打ち出すことができず対応に苦慮しました。

中期計画は、本校が抱える内部環境や外部環境の課題を洗い出すことで、環境の課題を把握し、本校の強み・弱みを分析することを考えます。

したがって、理念を明らかにし、本校を取り巻く環境について理解し、戦略を立て、課題解決のために行動計画と数値目標を明らかにし、具体的な目標を検討します。

⑥ 日本語学科の充実

文化・教養専門課程では、「語学力の修得、日本の文化、習慣、マナーの理解」をテーマに、言語の4技能である「話す、聞く、読む、書く」について丁寧かつ親身な指導を実施しました。

また在学中は本校医療専門課程の在學生と留學生とのコミュニケーションを深めるために、学内において様々なイベントを企画し日本人とのコミュニケーション能力の育成に努めました。

さらに、オンラインシステムによる学習コンテンツの充実を図り、緊急事態宣言中も継続した日本語学習を実施しました。この結果、令和3年3月には1期生を卒業させ、希望する大学に進学させることができました。

⑦ 施設設備の整備

令和2年度に策定した中長期計画に基づき、予算状況に応じた修繕・改修を実施しました。工

事時期は、授業への影響を踏まえ、可能な限り、学生の長期休暇中に着手から完了にまで至るよう努めます。

また、安全な学習環境の確保の観点から令和3年2月に発生した地震による被害箇所については公的な補助金等を活用し、優先的に修繕を行いました。

さらに、令和2年度に整備した館内のWi-Fi環境を有効に活用し、授業等で使用する学生への配布資料のデータ化により効率化を進めました。

その他、環境問題やコスト面を考慮しつつ、デジタルコンテンツを活用した授業の導入や学生の学修効果を高めるためオンラインによる学習コンテンツの充実を図りました。

平成30年度に改正された新カリキュラムの内容に鑑み、教育用備品としてバイタルサイン計測機器、超音波画像観察装置、リハビリテーション・介護関連用具（車椅子などの歩行補助具・その他補装具）、スポーツトレーニング用具（ADL訓練）の充実を図りました。

⑧ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

本校の設立母体である全国柔整鍼灸協同組合との連携強化として、同会への入会を促進しました。また、本校への入学希望者の紹介から卒業後の就職先としての循環的連携関係を構築し、社会貢献できる人材育成を図りました。

全国柔整鍼灸協同組合主催の研修会、勉強会への参加を促すため、校内での広報を充実させます。実技実習用消耗品の学内販売を通じて情報交換を積極的に行いました。

令和3年度においても例年実施している3年生を対象とした業団説明会を開催し、柔道整復や鍼灸に関する社会的な役割や保険制度の仕組み、さらには健康保健を取り巻く環境や業界の今後の展望について学びます。

臨床の現場に直結した貴重な講義を学生が聴講できるのは、業界団体を母体とする本学の強みであり、今後もこうした取組を進めていきます。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

政府による新型コロナウイルス感染症対策本部より発表がありました方針を踏まえ、本校の感染拡大防止対策における対応について、ガイドラインを改訂し、学生、保護者に周知徹底を図るとともに、ホームページ等にも公開しました。

(4) なにわ歯科衛生専門学校

① 入学者の確保

オープンキャンパスでは、学校の雰囲気がわかる体験実習や在校生との交流、個別に対話する機会を持つことにより、参加者の満足度を高めることを重視しました。主な対象が高校生であることから、営業活動でのアプローチ（高校内ガイダンス・高校訪問）やSNS（LINE・Twitter）を中心にスマートフォンやパソコンを活用した情報配信による広報活動にも注力しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により体験型のオープンキャンパスは複数回中止となり、WEBオープンキャンパスへ切り替えて行いました。

その結果、令和3年度入学生の入学試験の競争倍率は、昼間部1.3倍、夜間部1.8倍となり、AO入試を中心に入学生の早期確保を目標に準備を進めました。昼間部は入学定員72名に対し志願者115名、夜間部は入学定員36名に対し志願者68名となり、最終的に昼間部80名（充足率115.2%）、夜間部40名（同102.7%）が入学しました。

② 教育の充実

令和2年度は、従来のカリキュラムのほか、学外研修や歯科医療関係の企業からの講義・講演、技術的な講習の機会を拡大することに努めました。

実技科目については昼間部・夜間部とも綿密な指導を行い、特に臨床実習前や卒業前の実技試験に力を入れて取り組みました。

さらに、歯科衛生士として高齢者や障がい者との接点も多いことから、福祉関係にも積極的に携わるようにしています。例年に倣って介護初任者研修やガイドヘルパーの講義を開講し、エイジレスセンターでの研修も行いました。

また、各担当が学生と接する時間を多く取り、精神面のケアや相談、学習のフォローを行うことにも努めました。

③ 国家試験対策の充実

国家試験については、年間9回の模擬試験を実施し、指導に反映しています。例年に倣い、国家試験対策用のカリキュラム（総復習講義、国試対策補講）や外部の国家試験対策講座（夏季と国家試験前）も行うとともに、令和元年度より新たに国家試験対策に特化した講義を取り入れました。また、過去の国家試験問題などを閲覧できるアプリも利用しました。

令和2年度の結果は、受験者97名中合格者91名で、合格率は93.8%（令和元年度94.4%）となり、受験者全体の全国平均（93.3%）を上回りました。不合格者には、国家試験対策講義の聴講や模擬試験などにより合格に向けた対策を行うこととしています。

④ 就職支援の充実

昼間部の学生は例年11月頃には就職希望先を決め、順次採用試験に向かうことから、そのための指導や相談を綿密に行いました。夜間部の学生は11月まで臨床実習があるため、それ以降に就職指導を行いました。卒業後の就職状況については、卒業生97名に対して求人数は10倍以上となり、就職希望者はほぼ採用が決定しました。就職先は主に一般の歯科診療所となっています。就職時期が卒業式後に決定する学生が多くなっていることから、今後も、就職希望者全員が就職できるよう、学生一人ひとりに対するきめ細かい進路指導を行っていきます。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人において、中期計画を作成することが必須となり、本校においても所定の様式に従い、令和2年度から5か年の中期計画を策定しました。

令和2年度は、教育理念に基づき学校運営に注力しました。コロナ禍により教育環境の設置を行いました。社会貢献・地域貢献についてはこれまでの取組を見直し、今後は自己点検・評価を通して中期計画の進捗を確認し、適宜修正を行います。

⑥ 施設設備の整備

令和2年度については、コロナ禍に伴い急遽、遠隔授業にて講義ができるよう、Wi-Fi環境を導入し、衛生面の環境整備として全館に便座除菌クリーナーディスペンサーの設置も行いました。

また、令和3年度の昼間部83名の入学者のために、マネキン実習台を2台追加で設置しました。引き続き、現状でまだ問題が見られる個所を点検した上で、順次令和2年度以降に見直す予定です。

⑦ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインに基づき、講義はZoomによる在宅学習を中心に行いました。学内実習は少人数で行い、臨床実習・臨地実習については施設の指示に従い、感染者が増加傾向にある場合、学内での実習に変更し、授業以外の補習、学生の自習などは原則中止としていました。学外実習の実施については緊急事態宣言に伴い、修了認定に差し支えないように調整しました。

また、各階の教卓及び学生机にアクリル板を設置し、学生館内使用後は学内消毒の徹底をしております。

(5) 名古屋平成看護医療専門学校

① 入学者の確保

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、対面型のオープンキャンパスが十分に行えませんでした。が、「公式ホームページのリニューアルによる学校情報の充実」「若年層の情報入手手段として利用されている SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の情報発信力の強化」「Web個別相談の実施」など、非接触型の広報活動を強化することにより、令和3年度の入学人数は増加傾向に転じました。

結果として、令和2年4月の入学人数が86名だったのに対し、令和3年4月入学生は144名に増加しました。収容定員充足率は、看護学科が100%を確保しましたが、他の学科（理学療法学科、柔道整復学科、はり・きゅう学科、アスレティックトレーナー学科）が増員はしましたが定員充足には至りませんでした。

令和3年度で3年目を迎えますが、学生募集活動における本校の認知度がまだまだ不十分であるため、令和2年度に十分な活動ができなかった高校訪問や進学ガイダンスにおけるアプローチの見直しを行い高校生の早期獲得を目指します。また5学科それぞれの特色や魅力を明確にし、高校生が学びたいと感じるような学校であるために、教職員全員が学生ファーストの意識を持ち学生募集活動にも取り組んでいきます。

② 教育の充実

教育理念に掲げている「徳義の涵養」を実践する教育として、「感謝」（学修環境や健康に感謝する心を学ぶ）、「自他共栄」（人間関係の重要性を学ぶ）、「自律」（自ら学ぶ心を修得）の3つの軸で構成し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により制限はあったが、各学科の授業に取り入れました。

各学科で取得を目指す国家資格（看護師、理学療法士、柔道整復師、はり師・きゅう師）や認定資格（日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー、JATI認定トレーニング指導者、日本赤十字社救急法救急員、介護予防指導委員、スポーツリーダー、アロマなど）に対する教育を充実させることは、合格率の結果にも影響します。課題としては、学力蓄積が数字に反映できていない学生に対しての指導方法について重点的に見直します。

また、学業不振や実習先での悩みやストレスなどの医療分野特有の心の悩みによる退学やつまずきを未然に防ぐことを目的とした心理カウンセラーの配置は、担任または学科教員など直接相談しにくい学生にとって、とても大きな役割を担っています。

③ 国家試験対策の充実

前法人による募集停止（平成30年度）により、令和2年度の新卒者の国家試験受験者は、理学療法学科7名、看護学科1名でした。そのうち理学療法学科4名しか合格へ導くことができませんでした。

例年であれば、最終学年のクラス単位の国家試験対策授業を起点として、弱点強化の補習や指導を個別に継続的に実施していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策での人的交流の制限により、国家試験対策授業も一部リモートでの実施を余儀なくされたことにより、学力を合格ラインまで伸ばすことができませんでした。今後は成績不良者に対する個別指導を強化するための実施方法を見直し、国家試験並びに認定資格試験合格率のより一層の向上を目指します。

④ 就職支援の充実

前法人による募集停止（平成30年度）により、令和2年度卒業生は理学療法学科7名と看護学科1名の計8名でした。国家試験に合格した4名のうち3名は就職し1名は就職活動中です。理学療法学科不合格の3名は来年の国家試験に向けて再サポートを受ける予定です。看護学科不合格の1名は医療関係の職場に就職しています。

令和2年度は卒業生が少なかったのが幸いでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により例年と比較すると求人件数は激減しました。令和3年度以降は就職サポートが学校の強みの一つになるように、就職担当者と担任による学生への志望や個性に合った就職先を見つけられるようにサポートを強化します。

また、附属鍼灸接骨院のリニューアルに伴い、柔道整復学科、はり・きゅう学科の学生に対し、実際の現場を見て触れることができる環境を有益に活用し、職業意識を高めることができる機会を提供します。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和2年度から令和6年度までの5年間について「教育理念」「学校運営」「教育活動」「学修成果」「学生支援」「教育環境」「学生の募集と受入れ」「法令等の遵守」「社会貢献・地域貢献」の9項目について、中期計画を策定し進捗状況の確認を行いました。

新型コロナウイルス感染症の拡大による社会全体の行動様式の見直しにより、教育活動や学校運営の根幹となる人との交流に対する制限を強いられたため、オンライン授業の環境整備や、病院等での臨地実習やスポーツイベントにおける外部実習での学生の学びの機会を制限される状況が続くなど、それらの対応に終始翻弄される一年でした。

この状況は一過性のものではなく、今後の新しい社会行動様式としての継続的な変化と捉え、人との交流が中心となる「教育活動・環境」「社会・地域貢献」「学生募集」については、従来通りの方針からの大きな変革が求められると考え、今後の中期計画にも反映させます。

⑥ 施設設備の整備

令和2年度には、E館非常階段改修工事やD館空調機リニューアル工事を実施しました。また、学校法人河合塾学園のアリーナに設置していた「ケアセンター」「トレーニング室」「スタジオ」等の運動関連設備を、E館校舎地下1階並びに1階に移転しました。「柔道場」の建築・移転計画が遅れ完成が令和3年度にずれ込みましたが、関係各所との調整を速やかに行い、令和3年度の柔道整復学科の柔道授業に支障がないようにいたします。

また、近年、鍼灸院・接骨院を統合して鍼灸接骨院として運営する施術所が増えていることから、実社会に即した柔道整復学科、はり・きゅう学科の臨床実習施設としての充実を図るため、本校も附属接骨院と附属鍼灸院を統合し、附属鍼灸接骨院として運営を開始しました。

新型コロナウイルス感染拡大により、必要視されるWi-Fi環境の新規整備、老朽化に伴う空調設備やPCの更新については、速やかに整備計画を検討します。

⑦ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

令和2年度は、柔道整復学科、はり・きゅう学科の卒業生がいなかったことから、全国柔整鍼灸協同組合、そして内閣府の認可団体である公益社団法人全国柔整鍼灸協会による、「柔道整復や鍼灸の保険取扱い業務に関する講習会」や「柔道整復師と鍼灸師の業界団体説明会」は実施していません。新型コロナウイルス感染拡大の影響で支部会等の活動も中止となりましたが、可能な限り全国柔整鍼灸協同組合の東海支部の活動に参加・協力いたしました。今後も柔道整復学科、はり・きゅう学科教員による協同組合活動への積極的な参加や活動会場としての校舎の提供など、業界団体との連携を継続し、業界団体を母体とする強みをいかした新たな産学連携事業の実現を目指します。

⑧ 学科の再編

令和4年度より5学科の内、4学科の入学定員数の見直しを行います。具体的には、理学療法学科35名から30名、柔道整復学科54名から30名、はり・きゅう学科60名から40名、アスレティックトレーナー学科50名から25名に削減します。また教育内容、国家試験合格率、就職率、産学連携や地域活動など、学校教育の充実を目指し、その成果を学生募集活動にもいかし定員充足に努めます。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

厚生労働省や愛知県のマニュアルに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、学生や教職員に感染者または濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示に従い対応しております。

具体的な校内における感染予防対策として、教室・ロビーまたはエレベーター等の共用部分を毎日除菌し、教室内においては座席間隔を空け、サーキュレーターを使用し室内換気するなど3密環境の排除を徹底しています。また、学生には登校時の検温、マスク着用、昼食時は一方向を向いての食事、実技授業では、フェイスマスクや手袋を着用するなど感染対策に努めております。来訪者やオープンキャンパスの参加者にも同様に、マスク着用と検温をお願いしております。

(6) 日本総合医療専門学校

① 入学者の確保

中央医療学園との設置者変更による認可申請を前提に学生募集を行っていましたが、東京都私立専修学校設置認可取扱内規第11の規程により認可ができないとの指導があったため、令和3年1月から、急遽、日本総合医療専門学校として、募集活動・入学試験等を実施しました。ホームページの修正やリスティング広告により周知に努めたものの、60名定員に対して23名にとどまりました。

② 教育の充実

「臨床現場で活躍できる柔道整復師の育成」を重点教育目標とし、1年次、2年次は、基礎医学科目及び専門科目、柔道整復実技の基礎を重点的に履修させ、3年次は、臨床実習を通じて、総合的に患者を診ることができる知識と技能を習得させるように行いました。実技授業については学生に目が届くように教員2名体制で実施しました。

③ 国家試験対策の充実

新規合格率は、96.0%となり好成績でした。令和3年度については、国家試験対策委員をたて、学生の学力を分析しつつ的確な指導を行っていきます。

④ 就職支援の充実

外部企業(就職支援)との連携により、企業合同説明会を年2回開催しました。
学生が求人票の閲覧を共有できるようにしました。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

法人合併に伴う学則(目的)変更を行い、教育理念・教育目標・育成人材の改定に基づき、各項目の具体的な内容に準じ学校運営を実施しました。

他方では、新型コロナウイルス感染症対策の影響を受け、実行が困難となり、計画変更等を

余儀無くされました。

⑥ 施設設備の整備

本校附属接骨院の運営方針を改善し、超音波画像診断装置による画像診断を行えるよう配置しました。また、専任教員が当院における兼任勤務体制を構築し患者の施術にあたることで、授業科目である臨床実習における授業効果を高めました。加えて、授業科目の画像評価実技向けに簡易型超音波診断装置を導入し活用しました。

⑦ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

業界団体を母体とする強みを生かし、3年生に対して柔道整復師の業界団体説明会を実施しました。令和3年度においては、保険取扱い業務に関する講習会を実施します。

⑧ 新型コロナウイルス感染症対策について

以下の内容に留意し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めました。

- ・安全を再優先に考え、発熱等かぜ症状のある生徒、教職員は、原則として出席または出勤停止とすることにより、学内にウイルスを持ち込まない。
- ・クラスター発生リスクの高い条件いわゆる3つの密を(密閉・密集・密接)が同時に重なる場を徹底的に排除した環境づくりに努める。
- ・万が一感染症が発生した場合は、感染者に対する偏見や差別等が生じないように注意し個人情報管理にも慎重に行う。
- ・新型コロナウイルス感染症に対するワクチンや治療薬の開発に時間を要することから、今後の流行の発生を想定した行動をとる。
- ・学校での学生の健康観察を徹底した。

(7) 法人本部

① 規程整備の推進

令和2年度は、文部科学大臣への認可申請により、「和歌山看護専門学校」を公益社団法人和歌山県病院協会から設置者変更するための寄附行為変更を行いました（令和3年3月4日文部科学大臣認可、令和3年3月31日施行）。

なお、グループウェアを活用し、本学園の諸規程を各学校の教職員が閲覧できるシステムを構築しました。令和3年度は、諸規程を順次見直し、実態と整合しない条文等を修正、整備を行い、規程を更新していきます。

② 情報公開の充実

令和2年度には、令和2年4月1日施行の私立学校法の改正に伴い、文部科学大臣認可後の寄附行為や評議員会及び理事会で承認された役員の報酬等の支給の基準等を公表しました。

また、学園ホームページを現在のWeb環境（スマートフォンやタブレットによる閲覧）に適したデザインに変更するとともに、速やかに情報公開できる管理システムの導入について検討しました。令和3年度中の完成を目標に学園ホームページのリニューアルを行います。

③ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和2年4月1日施行の私立学校法の改正に従い、令和2年度から6年度までの5年間の中期計画を策定しました。令和2年度では、法人本部は計画に基づき「経営ガバナンスの強化」、「財政基盤の安定化」、「施設・設備の計画的整備」の3項目について検討しました。

- ・経営ガバナンスの強化

令和3年1月14日に実施された学校法人運営調査の結果に基づく意見に従い、「利益相反取引」「出資会社における事業の種類」について適切な対応を速やかに行うとともに、「資産運用体制」、「監査体制」、「顧問に関する規程」などの整備についても引き続き検討します。

・財政基盤の安定化

宝塚医療大学和歌山保健医療学部、留学生別科・介護福祉別科の開設、そして名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校、中央医療学園専門学校の譲受に係るここ数年の経費増大により、令和2年度の財務状況はマイナスとなる予定ですが、新規設置校の学生数の増加による学納金収入増により、中期的には財政基盤は拡大し安定化すると見込んでいます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「学校法人平成医療学園設立20周年及び宝塚医療大学開学10年記念式典」開催の準備は遅れています。令和3年度にコロナ禍における実施方法や寄付金募集方法を再検討した上で準備を進めます。

・施設・設備の計画的整備

学園全体の財政状況と令和2年のコロナ禍における社会情勢の変化も勘案した長期的なビジョンを再構築した上で、計画中の宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科（仮称）、宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科（仮称）等の新たな設置、ならびに既存の学校の施設・設備の大規模改修等について点検、検討します。

なお、校舎等の新設ならびに施設・設備の大規模改修の際には、学校毎にエネルギー使用状況を把握し、各学校の施設・設備の省エネ化を図ります。

④ 学校法人日本医科学総合学院との法人合併

本学園と学校法人日本医科学総合学院（所在地東京都荒川区）とが、人的・知的資源の交流と物的資源の活用を図り、令和2年4月1日付けの学校法人合併に向けて、令和元年度に本学園が設置する学校の所轄庁とする都府県知事からの進達により文部科学大臣に学校法人合併認可申請等の手続きを行い、令和2年1月16日文部科学大臣から学校法人合併認可を受けるとともに、令和2年3月31日東京都知事から柔道整復師養成施設の指定を受けました。令和2年4月1日付けで合併し、本学園が設置する日本総合医療専門学校を開設しました。

⑤ 中央医療学園専門学校の事業譲渡について

本学園と学校法人中央医療学園（所在地：東京都葛飾区）との間で、令和元年8月23日に締結した事業譲渡契約書に基づき、令和3年4月1日付けで計画通り中央医療学園専門学校の校地、校舎の所有権移転仮登記を行いました。

当初計画していた、日本総合医療専門学校と中央医療学園専門学校の統廃合による宝塚医療大学専門学校（仮称）の設置者変更認可申請を諸般の事情により取り下げ、令和4年4月1日付けで、日本総合医療専門学校を宝塚医療大学専門学校（仮称）に名称変更するとともに移転し、中央医療学園専門学校の人的・知的資源と物的資源の活用を図り、鍼灸学科を新設するため、所用の手続きを行います。

⑥ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策として、理事会・評議員会、常任理事会、各校の運営者会議等の会議では、遠方の出席者がリモートで参加できる環境を整備しました。

理事長は、各校に所轄都府県によるガイドラインの遵守の徹底と、学長・校長を長とした対策本部の設置を指示しました。また、グループウェアを活用して学生・教職員の体調不良者の情報をリアルタイムで共有し、状況に応じた感染予防対策を講じることにより、校内クラスターの発生を防いでいます。

◆ 理事会

(令和2年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和2年5月27日	第1号議案：令和元年度事業報告書（案）について 第2号議案：令和元年度決算（案）について 第3号議案：理事の競業について 第4号議案：職業訓練法人東京都調理訓練協会への資金の長期貸付けについて 第5号議案：各学校の新型コロナウイルス感染症対策について（報告） 第6号議案：各学校の学生募集状況について（報告） 第7号議案：その他
令和2年5月27日	第1号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について ① 柔道整復学科夜間部の廃止に伴う、教員定数の変更について ② 理学療法学科実習時間数の変更について ③ アスレティックトレーナー学科の教育課程表の変更について ④ 理学療法学科科目名の変更について（報告） 第2号議案：宝塚医療大学指定強化スポーツ授業料減免規程の一部改正（案）について 第3号議案：日本総合医療専門学校校舎の使用について
令和2年9月10日	第1号議案：宝塚医療大学専門学校（仮称）衛生専門課程開設年度の延期について 第2号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について 第3号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部修正（案）について 第5号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について 第6号議案：なにわ歯科衛生専門学校の臨床実習施設の一部変更（案）について 第7号議案：学校法人札幌青葉学園の債務保証について 第8号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正の取り下げについて（報告） 第9号議案：名古屋平成看護医療専門学校理学療法学科のカリキュラム科目名変更に伴う錯誤について（報告） 第10号議案：その他

令和2年10月23日	<p>第1号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について</p> <p>第2号議案：令和3年度予算編成方針（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学留学生別科2年課程の設置について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場の建築ならびに校舎の各室の用途及び面積の変更について</p> <p>第6号議案：名古屋平成看護医療専門学校奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：公益社団法人和歌山県病院協会との学校事業譲渡契約書（案）について（報告）</p> <p>第8号議案：日本総合医療専門学校校舎権利の処分について（報告）</p> <p>第9号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第10号議案：その他</p>
令和3年1月29日	<p>第1号議案：宝塚医療大学の転籍について</p> <p>① 宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>② 宝塚医療大学転籍に関する規程の制定（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学学長選任規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学専門学校設置者変更認可申請に係る進捗状況について（報告）</p> <p>第4号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第5号議案：その他</p>
令和3年2月25日	<p>第1号議案：令和2年度第二次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：各学校の入学定員変更（案）について</p> <p>① 平成医療学園専門学校 入学定員変更（案）について</p> <p>② 横浜医療専門学校 入学定員変更（案）について</p> <p>③ 名古屋平成看護医療専門学校 入学定員変更（案）について</p> <p>第5号議案：なにわ歯科衛生専門学校学生納付金等の改定（案）について</p> <p>第6号議案：日本総合医療専門学校柔道整復師養成施設の学生募集再開について</p> <p>第7号議案：宝塚医療大学専門学校（仮称）柔道整復師養成施設及びはり師きゅう師養成施設の指定取消申請について</p> <p>第8号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について</p> <p>第9号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第10号議案：その他</p>
令和3年2月25日	<p>第1号議案：なにわ歯科衛生専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第2号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について</p>

令和3年3月25日	<p>第1号議案：監事及び評議員の選任等について</p> <p>① 監事候補者の選出について</p> <p>② 評議員の選任について</p> <p>第2号議案：日本総合医療専門学校校舎移転について</p> <p>第3号議案：日本総合医療専門学校医療専門課程鍼灸学科新設について</p> <p>第4号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学事務局長の選任について（報告）</p> <p>第6号議案：学校法人運営調査の調査結果について（報告）</p> <p>第7号議案：その他</p>
令和3年3月25日	<p>第1号議案：令和2年度第三次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：令和3年度事業計画（案）について</p> <p>第3号議案：令和3年度予算（案）について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学、平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校及び和歌山看護専門学校の校長の選任について</p> <p>第5号議案：役員等の選任について</p> <p>① 理事の選任について</p> <p>② 監事の選任について（報告）</p> <p>③ 評議員理事及び評議員の選任について（報告）</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学副学長の選任等について</p> <p>① 宝塚医療大学副学長の定年年齢について</p> <p>② 宝塚医療大学副学長の選任について（報告）</p> <p>第7号議案：全柔協F C株式会社の株の売却について</p> <p>第8号議案：学校法人平成医療学園組織規程の一部改正（案）について</p> <p>第9号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第10号議案：学校法人平成医療学園和歌山看護専門学校就業規則の制定（案）について</p> <p>第11号議案：その他</p>
令和3年3月25日	<p>第1号議案：役員等の選任等について</p> <p>① 理事長の選任について</p> <p>② 理事長職務の代理順位について</p> <p>③ 常務理事の選任について</p> <p>④ 常任理事会理事の選任について</p>

◆ 常任理事会

（令和2年度開催実績）

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和2年4月30日	<p>第1号議案：学校法人平成医療学園と大阪健康福祉短期大学との提携について</p> <p>第2号議案：新型コロナウイルス感染症による学生等への対応について（報告）</p> <p>第3号議案：文化・教養専門課程日本語学科の現状と今後の対応について（報告）</p> <p>第4号議案：その他</p>

令和3年1月8日	第1号議案：宝塚医療大学専門学校設置認可申請に係る東京都への対応について 第2号議案：新型コロナウイルス感染症による学生等への対応について（報告） 第3号議案：その他
令和3年1月29日	第1号議案：入学定員の見直しについて 第2号議案：その他

◆ 評議員会

（令和2年度開催実績）

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和2年5月27日	第1号議案：令和元年度事業報告書（案）について 第2号議案：令和元年度決算（案）について 第3号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について ① 柔道整復学科夜間部の廃止に伴う、教員定数の変更について ② 理学療法学科実習時間数の変更について ③ アスレティックトレーナー学科の教育課程表の変更について ④ 理学療法学科科目名の変更について（報告） 第4号議案：宝塚医療大学指定強化スポーツ授業料減免規程の一部改正（案）について 第5号議案：日本総合医療専門学校の校舎の使用について 第6号議案：職業訓練法人東京都調理訓練協会への資金の長期貸付けについて 第7号議案：各学校の新型コロナウイルス感染症対策について（報告） 第8号議案：各学校の学生募集状況について（報告） 第9号議案：その他
令和2年9月10日	第1号議案：宝塚医療大学専門学校（仮称）衛生専門課程開設年度の延期について 第2号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について 第3号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部修正（案）について
令和2年9月10日	第1号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について 第2号議案：なにわ歯科衛生専門学校の臨床実習施設の一部変更（案）について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園の債務保証について 第4号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正の取り下げについて（報告） 第5号議案：名古屋平成看護医療専門学校理学療法学科のカリキュラム科目名変更に伴う錯誤について（報告） 第6号議案：その他
令和2年10月23日	第1号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について 第2号議案：令和3年度予算編成方針（案）について

令和2年10月23日	<p>第1号議案：宝塚医療大学留学生別科2年課程の設置について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場の建築ならびに校舎の各室の用途及び面積の変更について</p> <p>第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：公益社団法人和歌山県病院協会との学校事業譲渡契約書（案）について（報告）</p> <p>第6号議案：日本総合医療専門学校校舎権利の処分について（報告）</p> <p>第7号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第8号議案：その他</p>
令和2年12月18日	<p>第1号議案：和歌山看護専門学校の設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について</p> <p>第2号議案：中央医療学園専門学校の設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について</p> <p>第3号議案：令和2年度第一次補正予算（案）について</p> <p>第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場建築等に係る長期借入金について</p> <p>第5号議案：和歌山看護専門学校学則の制定（案）について</p> <p>第6号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について</p>
令和2年12月18日	<p>第1号議案：なにわ歯科衛生専門学校の校長の選任について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学介護福祉別科入学金減免規程の制定（案）について</p> <p>第3号議案：平成医療学園専門学校奨学金規程等の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：名古屋平成看護医療専門学校奨学金規程 入学時特別奨学金細則の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：学校法人福寿会との法人合併の検討について（報告）</p> <p>第6号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第7号議案：その他</p>
令和3年1月29日	<p>第1号議案：宝塚医療大学の転籍について</p> <p>① 宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>② 宝塚医療大学転籍に関する規程の制定（案）について</p>
令和3年1月29日	<p>第1号議案：宝塚医療大学学長選任規程の一部改正（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学専門学校設置者変更認可申請に係る進捗状況について（報告）</p> <p>第3号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第4号議案：その他</p>
令和3年2月25日	<p>第1号議案：令和2年度第二次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：その他</p>

令和3年2月25日	<p>第1号議案：各学校の入学定員変更（案）について</p> <p>① 平成医療学園専門学校 入学定員変更（案）について</p> <p>② 横浜医療専門学校 入学定員変更（案）について</p> <p>③ 名古屋平成看護医療専門学校 入学定員変更（案）について</p> <p>第2号議案：なにわ歯科衛生専門学校学生納付金等の改定（案）について</p> <p>第3号議案：なにわ歯科衛生専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：日本総合医療専門学校柔道整復師養成施設の学生募集再開について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学専門学校（仮称）柔道整復師養成施設及びはり師きゅう師養成施設の指定取消申請について</p> <p>第7号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について</p> <p>第8号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p>
令和3年3月25日	<p>第1号議案：令和2年度第三次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：令和3年度事業計画（案）について</p> <p>第3号議案：令和3年度予算（案）について</p> <p>第4号議案：監事及び評議員の選任について</p> <p>① 監事の選任について</p> <p>② 評議員の選任について</p> <p>第5号議案：全柔協F C株式会社の株の売却について</p> <p>第6号議案：学校法人平成医療学園組織規程の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第8号議案：学校法人平成医療学園和歌山看護専門学校就業規則の制定（案）について</p> <p>第9号議案：日本総合医療専門学校の校舎移転について</p> <p>第10号議案：日本総合医療専門学校医療専門課程鍼灸学科新設について</p> <p>第11号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第12号議案：宝塚医療大学事務局長の選任について（報告）</p> <p>第13号議案：学校法人運営調査の調査結果について（報告）</p> <p>第14号議案：その他</p>
令和3年3月25日	<p>第1号議案：評議員理事の選任について</p>
令和3年3月25日	<p>第1号議案：宝塚医療大学、平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校及び和歌山看護専門学校の学校長の選任について（報告）</p> <p>第2号議案：役員を選任等について</p> <p>① 理事の選任について（報告）</p> <p>② 理事長、常務理事及び常任理事会理事の選任並びに理事長職務の代理順位の設定について（報告）</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学副学長の選任等について（報告）</p> <p>① 宝塚医療大学副学長の定年年齢について（報告）</p> <p>② 宝塚医療大学副学長の選任について（報告）</p>

4 学位又は称号

(1) 取得可能な学位又は称号

◆ 宝塚医療大学

学部	学科	学位
保健医療学部	理学療法学科	学士（保健医療学）
	柔道整復学科	学士（保健医療学）
	鍼灸学科	学士（保健医療学）
和歌山保健医療学部	リハビリテーション学科	学士（保健医療学）

（注）理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

リハビリテーション学科作業療法学専攻・理学療法学専攻でも、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、全学科で教員免許（中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育））を、理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科ではアスレチック・トレーナー資格（JATAC-ATC）を取得可能。

◆ 平成医療学園専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）
	東洋療法教員養成学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	日本語学科 進学2年コース	専門士（文化・教養専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、医療専門課程全科において、AEAJアロマセラピーアドバイザー、日本スポーツ協会スポーツリーダー、及び日本障がい者スポーツ協会初級障害者スポーツ指導者の資格を取得可能とし、さらに柔道整復師科・鍼灸師科では、アスレチック・トレーナー（JATAC-ATC）の資格も取得可能。

東洋療法教員養成学科では、あん摩マツサージ指圧はりきゅう教員資格を取得可能。

◆ 横浜医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）
文科・教養専門課程	日本語学科 進学2年コース	専門士（文化・教養専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	歯科衛生士学科	専門士（医療専門課程）

(注) 歯科衛生士国家試験受験資格に加え、所定のカリキュラムを履修することにより、介護職員初任者、移動支援従業者（全身性障がい）、移動支援従業者（知的障がい）資格を取得可能。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）
	理学療法学科	高度専門士（医療専門課程）
	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	はり・きゅう学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー学科	専門士（文化・教養専門課程）

(注) 看護学科・理学療法学科・柔道整復学科・はり・きゅう学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

アスレティックトレーナー学科では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの受験資格を取得可能。

◆ 日本総合医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復学科柔整スポーツ・ケアⅠコース	専門士（医療専門課程）
	柔道整復学科柔整スポーツ・ケアⅡコース	専門士（医療専門課程）

(注) 国家試験受験資格を取得可能。

◆ 和歌山看護専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）

(注) 国家試験受験資格を取得可能。

(2) 学位授与数及び授与率

◆ 宝塚医療大学

(令和2年度、単位：名)

学科	学位授与数	卒業学年在籍者数	学位授与率
理学療法学科	34	35	97.1%
柔道整復学科	26	39	66.7%
鍼灸学科	14	16	87.5%
合計	74	90	82.2%

(注) 「卒業学年在籍者数」は令和2年5月1日現在。

5 学生生徒等納付金

◆ 宝塚医療大学

(令和3年度、単位：円)

理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	400,000	450,000	450,000	450,000
実習費	300,000	300,000	350,000	350,000
合 計	1,950,000	1,700,000	1,750,000	1,750,000
柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	400,000	450,000	450,000	450,000
実習費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,950,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
リハビリテーション学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	850,000	850,000	850,000	850,000
施設管理費	400,000	400,000	400,000	400,000
実習費	250,000	250,000	300,000	300,000
合 計	1,800,000	1,500,000	1,550,000	1,550,000

(注) 上記のほか、学友会費、後援会費、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

留学生別科 1年課程	1年次	
入学金	120,000	—
授業料	620,000	—
合 計	740,000	
留学生別科 1年6ヶ月課程	1年次	2年次
入学金	120,000	0
授業料	620,000	310,000
合 計	740,000	310,000
留学生別科 2年課程	1年次	2年次
入学金	120,000	0
授業料	620,000	620,000
合 計	740,000	620,000

介護福祉別科	1年次	2年次
入学金	200,000	—
授業料	850,000	850,000
施設管理費	0	0

実習費	0	0
合 計	1,050,000	850,000

◆ 平成医療学園専門学校

(令和3年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	250,000	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
教材費	200,000	200,000	200,000
合 計	1,560,000	1,310,000	1,310,000
東洋療法教員養成学科	1年次	2年次	—
入学金	250,000	—	—
授業料	600,000	600,000	—
施設管理費	200,000	200,000	—
教材費	200,000	200,000	—
合 計	1,250,000	1,000,000	—
日本語学科 日本語・医療福祉系1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	—	—
合 計	720,000	—	—
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	310,000	620,000	—
合 計	410,000	620,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	620,000	—
合 計	720,000	620,000	—
応用日本語学科 1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	750,000	—	—
合 計	850,000	—	—
応用日本語学科 2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	750,000	750,000	—
合 計	850,000	750,000	—

(注) 上記のほか、学生会費、教科書代、白衣代(医療専門課程のみ)等の諸経費が必要となります。

◆ 横浜医療専門学校

(令和3年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	240,000	—	—
授業料	840,000	840,000	840,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,520,000	1,280,000	1,280,000
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	325,000	650,000	—
合 計	425,000	650,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	650,000	650,000	—
合 計	750,000	650,000	—

(注) 上記のほか、学友会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和3年度、単位：円)

歯科衛生士学科 昼間	1年次	2年次	3年次
入学金	100,000	—	—
授業料	640,000	640,000	640,000
実習料	160,000	160,000	160,000
教育充実費	100,000	100,000	100,000
合 計	1,000,000	900,000	900,000
歯科衛生士学科 夜間	1年次	2年次	3年次
入学金	50,000	—	—
授業料	590,000	590,000	590,000
実習料	160,000	160,000	160,000
教育充実費	80,000	80,000	80,000
合 計	880,000	830,000	830,000

(注) 上記のほか、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和3年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	270,000	270,000	270,000	—
合 計	1,640,000	1,390,000	1,390,000	—

理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	920,000
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	200,000
実習費	230,000	230,000	230,000	230,000
合 計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000
柔道整復学科・はり・きゅう学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	200,000	200,000	200,000	—
合 計	1,520,000	1,270,000	1,270,000	—
アスレティックトレーナー学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	150,000	—	—	—
授業料	620,000	620,000	—	—
施設・設備費	150,000	150,000	—	—
実習費	250,000	290,000	—	—
合 計	1,170,000	1,060,000	—	—

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、学校行事・健康管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和3年度、単位：円)

柔道整復師科	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	800,000	800,000	800,000
施設管理費	100,000	100,000	100,000
実技実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,300,000	1,100,000	1,100,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 和歌山看護専門学校

(令和3年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次
入学金	400,000	—	—
授業料	360,000	360,000	360,000
施設管理費	500,000	0	0
実技実習費※	180,000	180,000	180,000
合 計	1,440,000	540,000	540,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。

6 卒業及び就職等の状況

(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等

◆ 宝塚医療大学

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
理学療法学科	34	26	1	0	7
柔道整復学科	26	21	1	2	2
鍼灸学科	14	12	1	0	1
合 計	74	59	3	2	10

(令和3年5月1日現在、単位：名)

別科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
留学生別科（大阪豊崎・東京）	—	—	—	—	—
介護福祉別科	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—

◆ 平成医療学園専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	25	16	0	3	6
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	23	19	1	0	3
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	28	24	2	2	0
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	16	16	0	0	0
東洋療法教員養成学科	0	0	0	0	0
日本語学科 医療福祉系1年コース	0	0	0	0	0
日本語学科 進学1.5年コース	27	0	0	25	2
日本語学科 進学2年コース	55	0	0	45	10
応用日本語学科 1年コース	5	2	0	3	0
応用日本語学科 2年コース	6	0	0	5	1
合 計	185	77	3	83	22

◆ 横浜医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間	33	24	0	6	3
柔道整復師科 夜間	13	5	5	0	3
鍼灸師科 昼間	25	20	0	2	3

鍼灸師科 夜間	16	5	8	1	2
合 計	87	54	13	9	11

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
歯科衛生士学科 昼間	62	48	0	0	14
歯科衛生士学科 夜間	36	33	0	0	3
合 計	98	81	0	0	17

◆ 名古屋平成看護医療専門学校 (旧トライデントスポーツ医療看護専門学校)

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	1	1	0	0	0
理学療法学科	7	3	0	0	4
柔道整復学科 昼間	0	0	0	0	0
柔道整復学科 夜間	0	0	0	0	0
はり・きゅう学科 昼間	0	0	0	0	0
はり・きゅう学科 夜間	0	0	0	0	0
アスレティックトレーナー学科	0	0	0	0	0
合 計	8	4	0	0	4

◆ 日本総合医療専門学校

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔整スポーツ・ケアIコース 昼間	14	14	0	0	0
柔整スポーツ・ケアコース 夜間	11	11	0	0	0
合 計	25	25	0	0	0

◆ 和歌山看護専門学校（旧公益社団法人和歌山県病院協会和歌山看護専門学校）

（令和3年5月1日現在、単位：名）

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	44	44	0	0	0
合計	44	44	0	0	0

- 「就職者」とは、「正規の職員・従業員・自営業主等」又は「正規の職員ではない者のうち雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者」をいう。
- 在学中既に職に就いている者で、卒業後も引き続きその職にある場合は「就職者」に含める。
- 「就職者数（関係分野）」とは、卒業者が当該大学・専門学校に在学した学科の専門分野と同等又は関連のある分野の職業に就いた場合をいう。
- 「就職者数（その他分野）」とは、上記「就職者数（関係分野）」以外で、当該大学・専門学校で履修した学科とは直接関係のない分野に就職した者をいう。

(2) 主な就職先

◆ 宝塚医療大学

（令和3年5月1日現在）

学科	主な就職先
理学療法学科	医療法人社団成和会 ならまちリハビリテーション病院、社会医療法人孝仁会、ベリタス病院、北大阪ほうせんか病院、大阪晓明館病院、西川整形外科リハビリクリニック、医療法人社会福祉団 高須病院、加納総合病院、医療法人晴風園 今井病院、医療法人寛仁会 吉田アーデント病院、国立病院機構 神戸医療センター、医療法人医誠会 摂津医誠会病院、医療法人マックシール 巽病院、社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター、医療法人博悠会 名取病院、豊中平成病院、社会医療法人正峰会 大山記念病院、医療法人同仁会 京都九条病院、合志病院、医療法人社団KNI、医仁会 武田総合病院
柔道整復学科	株式会社ループクエスト、株式会社アムール、笑顔堂 爽健グローバル、ツクイ株式会社、あびこ森村クリニック ピース整体整骨院、株式会社スマイル、株式会社クラブクル みよし鍼灸整骨院、株式会社JOIN あゆむ鍼灸整骨院、株式会社Lehua、岩手ビッグブルズ、明治東洋医学院専門学校、瑞穂接骨院、藤本はりきゅう整骨院、株式会社わだちグループ、スマイル整骨院、なかのう鍼灸接骨院、愛媛県立川之江高等学校、A・T長島治療院、中村整骨院、株式会社SYNERGY JAPAN プラス鍼灸整骨院
鍼灸学科	神崎紙器工業株式会社、株式会社SYNERGY JAPAN プラス鍼灸整骨院、ゆびはり鍼灸整骨院、あゆむ整骨院、しん鍼灸整骨院、株式会社リーデン、川西だるま整骨院、わだち整骨院グループ、kirari鍼灸マッサージ院

7 国家試験の受験状況

◆ 宝塚医療大学

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
理学療法士国家試験	33	27	81.8%	86.4%
柔道整復師国家試験	26	24	92.3%	85.6%
はり師国家試験	13	12	92.3%	87.8%
きゆう師国家試験	13	12	92.3%	89.1%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	48	45	93.8%	85.6%
はり師国家試験	44	43	97.7%	87.8%
きゆう師国家試験	44	44	100.0%	89.1%

◆ 横浜医療専門学校

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	46	37	80.4%	85.6%
はり師国家試験	41	32	78.0%	87.8%
きゆう師国家試験	41	35	85.4%	89.1%

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
歯科衛生士国家試験	97	91	93.8%	95.1%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校 (旧トライデントスポーツ医療看護専門学校)

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	1	0	0.0%	95.4%
理学療法士国家試験	7	4	57.1%	86.4%
柔道整復師国家試験	—	—	—	—
はり師国家試験	—	—	—	—
きゆう師国家試験	—	—	—	—

◆ 日本総合医療専門学校

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	25	24	96.0%	85.6%

◆ 和歌山看護専門学校 (旧公益社団法人和歌山県病院協会和歌山看護専門学校)

(令和2年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	44	43	97.7%	95.4%

8 退学者数・除籍者数・留年者数・中退率

(1) 退学者数

◆ 宝塚医療大学

(令和2年度、単位：名)

学科	退学者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	10	8	4	0	22
柔道整復学科	7	8	2	2	19
鍼灸学科	9	1	1	1	12
保健医療学部	26	17	7	3	53
リハビリテーション学科	2	—	—	—	2
和歌山保健医療学部	2	—	—	—	2
合計	28	17	7	3	55

(2) 除籍者数

◆ 宝塚医療大学

(令和2年度、単位：名)

学科	除籍者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	0	0	0	0
柔道整復学科	0	0	0	0	0
鍼灸学科	0	0	0	0	0
保健医療学部	0	0	0	0	0
リハビリテーション学科	0	—	—	—	0
和歌山保健医療学部	0	—	—	—	0
合計	0	0	0	0	0

(3) 留年者数

◆ 宝塚医療大学

(令和2年度、単位：名)

学科	留年者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	9	4	7	1	21
柔道整復学科	3	3	0	12	18
鍼灸学科	5	2	2	2	11
保健医療学部	17	9	9	15	50
リハビリテーション学科	0	—	—	—	0
和歌山保健医療学部	0	—	—	—	0
合計	17	9	9	15	50

(4) 中退率

◆ 宝塚医療大学

(令和2年中の退学・除籍者数／令和2年5月1日現在の在籍者数)

学科	中退率			
	1年	2年	3年	4年
理学療法学科	13.2%	11.0%	4.5%	0.0%
柔道整復学科	9.0%	11.9%	4.1%	5.1%
鍼灸学科	22.5%	3.8%	4.2%	6.3%
保健医療学部	13.4%	10.2%	4.3%	3.3%
リハビリテーション学科	2.0%	—	—	—
和歌山保健医療学部	2.0%	—	—	—
合 計	9.5%	10.2%	4.3%	3.3%

9 社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数

(1) 社会人学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	社会人学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	2
保健医療学部 小計	2
リハビリテーション学科	2
和歌山保健医療学部 小計	2
合 計	4

(注)「社会人」とは、職に就いている者、すなわち、給料、賃金、報酬その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者をいう。また、企業等を退職した者及び主婦等も含む。

(2) 留学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和3年5月1日現在、単位：名)

学科	留学生数
理学療法学科	1
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
保健医療学部 小計	1
リハビリテーション学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
合 計	1

(3) 海外派遣学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和2年度、単位：名)

学科	海外派遣学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
保健医療学部 小計	0
リハビリテーション学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
合 計	0

Ⅲ．財務の概要

1 学校法人会計基準

◆ 学校法人とは

学校法人とは、私立学校の設置を目的として、私立学校法の定めるところにより設立される法人をいいます（私立学校法第3条）。学校法人は、学校法人会計基準で定めるところに従って会計処理を行い、計算書類を作成しなければならないとされています。

◆ 学校法人会計基準の特徴

学校法人は、一般の企業のように利益の追求を目的とするものではありません。学校法人は、教育研究活動を目的としていますが、収入と支出のバランスが取れなければ学校運営を維持することはできません。そのため、学校法人会計の目的は、設置運営する大学等の永続的維持、発展と教育研究活動の円滑な遂行です。同時に、経常費補助金に係る予算の適切な執行が求められます。

学校法人の収入の大半は、自由に増額することが困難な学生生徒等納付金です。また、教育研究活動の維持発展のための支出を削減することが難しい点があります。そこで、学校法人の経営状況及び財政状態を的確に把握するため、学校法人会計基準に基づき計算書類を作成する必要があります。

◆ 学校法人会計と企業会計の違い

企業が利益の追求を目的としているのに対し、学校法人は教育研究活動を目的としています。企業会計が計算書類からその経営成績を知ることが目的であるのに対し、学校法人会計は計算書類によって安定的、継続的に教育研究活動が行われているか否かを知ることが目的です。

学校法人の事業は、基本的に非営利事業です。そのため、収益事業を目的とした一般事業会社のように利益を得ることが目的とはなっていないことから、一定の制限の下に認められる収益事業を除き、企業会計における損益計算は適用されません。

2 各科目の説明

◆ 資金収支計算書の科目（収入の部）

科 目	説 明
学生生徒等納付金収入	教育研究活動の対価としての性質を有し、在学条件として義務的かつ一律に納付させる授業料、実験実習料や、学生生徒等を就学させるに当たって義務的かつ一律に納付させる入学金など。
手数料収入	特定の用役の提供に当たって受益者から徴収する手数料。入学検定料、試験料、証明手数料収入など。
寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とならないもの。
補助金収入	国又は地方公共団体から交付される助成金。日本私立学校振興・共済事業団やこれに準ずる団体からの助成金を含む。

資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却収入。不動産売却収入、有価証券売却収入など。
付随事業・収益事業収入	補助活動収入（食堂、売店、寄宿舍等教育活動に付随する活動に係る事業の収入）、附属事業収入（附属機関（病院、研究所等）の事業の収入）、受託事業収入（外部から委託を受けた試験、研究等による収入）、収益事業収入（収益事業会計からの収入）など。
受取利息・配当金収入	その他の受取利息・配当金収入（預金、貸付金等の利息、株式の配当金等）など。
雑収入	学生生徒等納付金収入から事業収入までの各収入に含まれない収入で、固定資産に含まれない物品の売却収入その他学校法人に帰属する収入。
借入金等収入	金融機関等から借り入れた資金。
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したもの。
その他の収入	学生生徒等納付金収入から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入。積み立ててきた特定資産から繰り入れた収入や、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入など。
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入のうち、資金の収入が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる収入項目に対応する勘定。
前年度繰越支払資金	前年度から繰り越した支払資金。

◆ 資金収支計算書の科目（支出の部）

科 目	説 明
人件費支出	教職員等に支給する人件費。教員人件費支出、職員人件費支出、役員報酬支出、退職金支出など。
教育研究経費支出	教育研究のために支出する経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
管理経費支出	教育研究経費以外の経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出。
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出。
施設関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する土地、建物、構築物、建設仮勘定等、固定して設置する固定資産に係る支出。
設備関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書、車輛等の設備又は電話加入権等の設備の利用に係る権利に係る支出。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による資金支出。
その他の支出	人件費支出から資産運用支出までの各科目に含まれない支出。当年度内に支払義務が確定しているが、年度末に未払いとなったもの（期末未払金）や、当年度に属する経費を前年度以前に前払いしたもの（前期末未払金）など。

資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出のうち、資金の支出が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる支出項目に対応する勘定。
次年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される支払資金。

◆ 事業活動収支計算書の科目

科 目	説 明
その他の教育活動外収入	収益事業収入、外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差益）など、教育研究活動以外の収入。
その他の教育活動外支出	外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差損）など、教育研究活動以外の支出。
その他の特別収入	施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額。
資産売却差額	学校が持つ不動産、有価証券等の資産を売却した際に生じる売却益。その他、有価証券の時価の著しい下落による有価証券評価損（有価証券評価差額）、有姿除却を行った場合の有姿除却等損失を含む。
その他の特別支出	災害損失、退職給付引当金特別繰入額、デリバティブ取引の解約損。
事業活動収入	学生生徒等納付金や補助金など学校法人の負債とならない収入。従来の「帰属収入」。企業会計の「収益」に当たる。
事業活動支出	年度内で消費する資産の取得価額（減価償却額など）と用役の対価として支出した額（人件費や経費支出など）。従来の「消費支出」。企業会計の「費用」に当たる。

本学園の財政運営に当たっては、経営の安定を図るとともに、健全な学園運営を行うために、学生生徒等納付金、経常費補助金などの収入の確保と支出の削減を図り、経営の合理化・効率化に努めているところです。本学園の令和2年度の決算は、以下のようになりました。

◆ **事業活動収支計算書の予算対比について**

教育活動収支の収入は30,178千円の増となり、内訳は、学生生徒等納付金44,290千円の減、手数料868千円の増、寄付金44,877千円の増、経常費等補助金13,344千円の増、付随事業収入669千円の減、雑収入16,047千円の増です。経常費等補助金の増は、主に修学支援助成金の収入増によるものです。

教育活動収支の支出は21,340千円の増となり、内訳は、人件費1,174千円の減、教育研究経費10,619千円の減、管理経費27,581千円の増、徴収不能額等5,551千円の増で、管理経費(報酬委託手数料・補助活動事業支出・通信費)・徴収不能額等の増加が主な要因となっており、結果、収支は8,838千円マイナス幅が縮小しました。

教育活動外の収入は9,598千円の増で、主要因は収益事業収入8,377千円の増です。教育活動外の支出は248千円の増となり、結果、収支は9,350千円マイナス幅が縮小しました。

特別収支の収入は76,550千円の増となり、主要因は現物寄付68,690千円の増です。特別収支の支出は7,947千円の増となり、内訳は主に機器備品処分差額の7,454千円の増で、結果、収支は68,603千円の増となりました。

基本金組入前当年度収支差額は86,791千円の増となりました。

基本金につきましては、基本金組入額が1,329,078千円となっています。

◆ **事業活動収支計算書の前年度対比について**

教育活動収支の収入は550,037千円の増となり、内訳は、学生生徒等納付金383,130千円の増、手数料4,411千円の減、寄付金55,364千円の増、経常費等補助金147,082千円の増、付随事業収入13,300千円の減、雑収入17,829千円の減です。学生生徒等納付金の増で特に大きな要因は、宝塚医療大学和歌山保健医療学部です。寄付金は特別寄付金1,240千円の減で、一般寄付金が57,267千円の増となっています。経常費等補助金は国庫補助金が78,678千円の増、都道府県補助金が85,932千円増、その他補助金17,624千円の減となっています。付随事業収入は、主に補助活動収入18,103千円の減、附属事業収入4,803千円の増です。雑収入は、施設設備利用料21,957千円の減が主な要因です。

教育活動収支の支出は455,336千円の増となり、内訳は、人件費295,105千円の増、教育研究経費318,431千円の増、管理経費159,662千円の減、徴収不能額等は1,461千円の増で、人件費の内訳は、教員人件費174,403千円の増、職員人件費131,096千円の増、その他の人件費10,394千円の減です。教育研究経費は高等教育の修学支援新制度の影響による奨学費139,013千円の増や減価償却費107,285千円の増が特に大きな要因です。管理経費は寄付金115,000千円の減が大きく影響しています。結果、収支は94,701千円マイナス幅が縮小しました。

教育活動外の収入は1,217千円の減となり、収益事業収入1,433千円の減が主たる要因です。

教育活動外の支出は5,880千円の増で、主要因は借入金利息5,838千円の増です。結果、収支は7,097千円のマイナス幅拡大となりました。

経常収支差額については87,605千円マイナス幅が縮小しました。

特別収支の収入は1,768,101千円の減となり、現物寄付1,573,574千円の減が主たる要因です。結果、収支は1,775,222千円の減となりました。

基本金組入前当年度収支差額は1,687,617千円の減となりました。

基本金は、昨年度組入額対比1,392,665千円減の1,329,078千円の組入れとなりました。

4 資金収支計算書

(単位：千円)

科目		令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	2,868,284	2,485,154	2,151,570	2,162,188	2,146,799
	手数料収入	36,059	40,470	30,532	24,125	23,204
	寄付金収入	65,291	9,264	51,416	29,924	11,191
	補助金収入	343,826	396,543	202,148	270,529	169,707
	資産売却収入	45,200	1,379	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	92,388	107,121	100,999	71,445	48,001
	受取利息・配当金収入	5,221	5,004	3,406	2,494	3,542
	雑収入	38,112	71,241	39,676	17,377	10,737
	借入金等収入	2,312,400	2,119,700	932,500	400,000	0
	前受金収入	1,803,013	1,521,574	1,319,029	1,188,381	1,201,074
	その他の収入	1,310,069	605,021	901,545	807,099	961,567
	資金収入調整勘定	△ 1,612,604	△ 1,548,408	△ 1,243,881	△ 1,235,398	△ 1,182,395
	前年度繰越支払資金	1,904,029	2,384,031	2,856,354	2,659,458	2,154,247
	収入の部合計	9,211,288	8,198,094	7,345,294	6,397,622	5,547,674
支出の部	人件費支出	1,940,979	1,646,337	1,340,882	1,289,254	1,301,793
	教育研究経費支出	760,902	548,996	442,680	405,742	411,624
	管理経費支出	872,028	1,051,458	651,252	489,028	266,552
	借入金等利息支出	41,882	36,044	22,791	20,272	23,135
	借入金等返済支出	1,658,597	141,475	136,380	106,277	111,372
	施設関係支出	89,623	2,086,356	1,267,729	315,798	52,067
	設備関係支出	414,763	89,145	80,765	41,578	74,719
	資産運用支出	2,997	3,080	3,912	13,677	82,420
	その他の支出	844,268	1,155,240	1,334,022	964,917	635,136
	[予備費]	0	0	0	0	0
	資金支出調整勘定	△ 135,504	△ 464,066	△ 319,150	△ 105,275	△ 70,602
	翌年度繰越支払資金	2,720,753	1,904,029	2,384,031	2,856,354	2,659,458
支出の部合計	9,211,288	8,198,094	7,345,294	6,397,622	5,547,674	

5

事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,868,284	2,485,154	2,151,570	2,162,188	2,146,799
		手数料	36,059	40,470	30,531	24,125	23,204
		寄付金	65,477	10,113	18,416	29,924	11,191
		経常費等補助金	343,626	196,543	202,148	175,913	124,900
		付随事業収入	84,010	97,310	90,923	61,282	44,429
		雑収入	51,912	69,741	39,676	17,377	10,737
		教育活動収入計	3,449,368	2,899,331	2,533,264	2,470,809	2,361,260
	支出の部	人件費	1,948,813	1,653,708	1,338,667	1,293,624	1,311,345
		教育研究経費	1,092,228	773,796	619,001	569,993	567,488
		管理経費	938,580	1,098,243	674,698	505,716	272,095
		徴収不能額等	7,552	6,090	87,323	82,193	860
		教育活動支出計	3,987,173	3,531,837	2,719,689	2,451,526	2,151,788
	教育活動収支差額		△ 537,805	△ 632,506	△ 186,425	19,283	209,472
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	5,221	5,004	3,406	2,494
雑収入			0	0	0	0	1,000
その他の教育活動外収入			8,377	9,811	10,076	10,164	3,572
教育活動外収入計			13,598	14,815	13,482	12,658	8,114
支出の部		借入金等利息	41,882	36,044	22,791	20,272	23,135
		その他の教育活動外支出	1,336	1,295	0	0	689
		教育活動外支出計	43,218	37,339	22,791	20,272	23,824
教育活動外収支差額		△ 29,620	△ 22,524	△ 9,309	△ 7,614	△ 15,710	
経常収支差額		△ 567,425	△ 655,030	△ 195,734	11,669	193,762	
特別収支	収入の部	資産売却差額	200	870	0	0	0
		その他の特別収入	800,150	2,567,581	36,390	96,158	49,672
		特別収入計	800,350	2,568,451	36,390	96,158	49,672
	支出の部	資産処分差額	7,497	326	2,439	8,853	26,093
		その他の特別支出	990	1,040	990	990	990
		特別支出計	8,487	1,366	3,429	9,843	27,083
	特別収支差額		791,863	2,567,085	32,961	86,315	22,589
[予備費]		0	0	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額		224,438	1,912,055	△ 162,773	97,984	216,351	
基本金組入額合計		△ 1,329,078	△ 2,721,743	△ 477,428	△ 405,970	0	
当年度収支差額		△ 1,104,640	△ 809,688	△ 640,201	△ 307,986	216,351	
前年度繰越収支差額		△ 1,268,284	△ 458,596	181,605	489,591	127,811	
基本金取崩額		0	0	0	0	145,429	
翌年度繰越収支差額		△ 2,372,924	△ 1,268,284	△ 458,596	181,605	489,591	
(参考)							
事業活動収入計		4,263,316	5,482,597	2,583,136	2,579,625	2,419,046	
事業活動支出計		4,038,878	3,570,542	2,745,909	2,481,641	2,202,695	

6 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部					
科目	令和2年度末	令和元年度末	平成30年度末	平成29年度末	平成28年度末
固定資産	13,320,726	12,720,311	8,193,765	6,811,407	6,640,179
有形固定資産	12,488,606	11,402,445	7,127,703	6,013,395	5,841,671
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	832,120	1,317,866	1,066,062	798,012	798,508
流動資産	2,834,002	2,299,573	2,581,271	2,975,191	2,733,351
資産の部合計	16,154,728	15,019,884	10,775,036	9,786,598	9,373,530
負債の部					
科目	令和2年度末	令和元年度末	平成30年度末	平成29年度末	平成28年度末
固定負債	5,158,102	4,596,016	2,368,352	1,577,430	1,303,051
流動負債	2,237,130	1,888,810	1,783,682	1,423,393	1,382,688
負債の部合計	7,395,232	6,484,826	4,152,034	3,000,823	2,685,739
純資産の部					
科目	令和2年度末	令和元年度末	平成30年度末	平成29年度末	平成28年度末
基本金	11,132,420	9,803,342	7,081,598	6,604,170	6,198,200
第1号基本金	10,860,063	9,599,469	6,915,356	6,437,928	6,060,578
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	272,357	203,873	166,242	166,242	137,622
繰越収支差額	△ 2,372,924	1,268,284	△ 458,596	181,605	489,591
純資産の部合計	8,759,496	8,535,058	6,623,002	6,785,775	6,687,791
負債及び純資産の部合計	16,154,728	15,019,884	10,775,036	9,786,598	9,373,530

7 基本金

基本金の種類は、以下の4つに分類されています。

① 第1号基本金

学校法人が設立当初に取得した固定資産の価額又は新たな学校の設置や既設の学校の規模の拡大、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額

② 第2号基本金

将来の固定資産の取得に充てるために、事前に計画的・段階的に積み立てる金銭等の資産の額

③ 第3号基本金

奨学基金、研究基金等の基金として継続的に保持・運用する金銭等の資産の額

④ 第4号基本金

恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣が定める額

令和元年度（令和2年3月31日決算）は、第1号基本金が下記のとおり組み入れられました。

（単位：千円）

第1号基本金（今年度増減）	
土地	436,200
建物	596,948
構築物	14,680
教育研究機器備品	△ 54,682
管理用機器備品	5,911
図書	79,745
車両	△ 1,421
建設仮勘定	10,109
ソフトウェア	4,892
借入金返済に伴う組入高	98,072
未払金支払による組入高	70,140
合計	1,260,594

基本金	
前期繰越高	9,803,342
第1号基本金	9,599,469
第4号基本金	203,873
当期組入高	1,329,078
第1号基本金	1,260,594
第4号基本金	68,484
当期末残高	11,132,420
第1号基本金	10,860,063
第4号基本金	272,357

8 財産目録

(単位：千円)

科目	令和2年度末	
一 資産額		
(一) 基本財産	12,488,606	
1 土地		
(1) 宝塚医療大学 校地	48,715.00 m ²	452,000
(2) 平成医療学園専門学校 第一校舎校地	582.70 m ²	98,403
(3) 平成医療学園専門学校 第二校舎校地	663.19 m ²	228,219
(4) なにわ歯科衛生専門学校 校地	474.99 m ²	282,720
(5) 横浜医療専門学校 校地	910.18 m ²	526,920
(6) 法人本部倉庫	93.24 m ²	39,026
(7) 平成医療学園専門学校 校地用地	780.27 m ²	445,274
(8) 名古屋平成看護医療専門学校 校地	1,365.32 m ²	1,527,200
(9) 名古屋平成看護医療専門学校 駐車場用地	143.73 m ²	36,167
(10) 日本総合医療専門学校	642.13 m ²	436,200
計	54,370.75 m ²	4,072,129
2 建物		
(1) 宝塚医療大学 校舎 設計費	4,759.97 m ²	697,041
(2) 宝塚医療大学 講義室棟	4,439.63 m ²	472,371
(3) 宝塚医療大学 屋内体育施設	1,504.44 m ²	168,572
(4) 宝塚医療大学 学生棟	1,305.58 m ²	174,625
(5) 宝塚医療大学 守衛室	8.41 m ²	3,757
(6) 宝塚医療大学 部室棟	238.48 m ²	35,404
(7) 平成保育園	-	36,287
(8) 宝塚附属保育園	-	109,997
(9) 看板	-	133
(10) 平成医療学園専門学校 第一校舎	1,709.51 m ²	230,518
(11) 平成医療学園専門学校 第二校舎	2,002.50 m ²	445,344
(12) なにわ歯科衛生専門学校 校舎	2,438.25 m ²	383,851
(13) 横浜医療専門学校 校舎	4,830.02 m ²	845,691
(14) 平成医療学園 事務所・共同住宅	1,395.20 m ²	283,924
(15) 豊崎倉庫	144.81 m ²	2,750
(16) 中津三丁目 事務所	116.75 m ²	27,913
(17) 宝塚医療大学 豊崎校舎 改修工事	0.00 m ²	37,625
(18) 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 校舎	6,467.55 m ²	2,251,074
(19) 尼崎保健医療学部口腔保健学科設置準備室 事務所	5,225.84 m ²	151,196
(20) 名古屋平成看護医療専門学校 校舎	7,846.55 m ²	613,583
(21) 日本総合医療専門学校 校舎	1,570.75 m ²	158,340
(22) 和歌山看護専門学校 校舎	3,339.96 m ²	357,000
(23) 野田クリニック 7階	-	8,827
計	49,344.20	7,495,823
3 構築物	181,332	

4 図書	-	266,345
5 教具・教育研究用機器備品・管理用機器備品	-	451,086
6 機械装置		1
7 車輛		9,471
8 建設仮勘定		12,419
(二) 運用財産		3,666,121
1 預金・現金		2,720,753
(1) 現金		5,386
(2) 普通預金		2,100,332
(3) 定期預金		615,035
2 有価証券(流動)		0
3 短期貸付金・立替金・預け金		4,203
4 不動産		0
5 貯蔵品		0
6 未収金		38,595
7 前払金		43,395
8 貯蔵品		27,056
9 ソフトウェア		13,156
10 保証金・敷金		87,021
11 有価証券		151,766
12 収益事業元入金 (=収益事業用財産)		323,771
13 長期貸付金		224,556
14 保険積立金		31,729
15 出資金		86
16 預託金		34
合計		16,154,727
二 負債額		
1 固定負債		5,158,101
(1) 長期借入金		4,797,187
(2) 退職給与引当金		103,405
(3) 長期末払金		256,559
(4) 長期預り金		950
2 流動負債		2,237,130
(1) 短期借入金		254,968
(2) 前受金		1,836,763
(3) 未払金		121,780
(4) 預り金		23,619
合計		7,395,231
三 借用財産		
1 土地	22,382.82 m ²	年額賃料 25,873
2 建物	1,827.03 m ²	年額賃料 27,673
合計	24,209.85 m²	

収益事業用財産			
1 (1) 事業用敷地	大阪市福島区吉野 1-9-18	147.12 m ²	88,272
	大阪市北区中津 3-34-1	347.38 m ²	170,000
	(小計)	494.50 m ²	258,272
(2) 事業用建物		765.28 m ²	71,742
(3) 事業用構築物			6,033
2 預金			100
3 前払費用			350
資産の部合計			336,497
3 (1) 未払金			14
(2) 未払法人税			982
(3) 未払消費税			230
(3) 前受金			1,600
(4) 預り保証金			9,582
負債の部合計			12,408
4 収益事業用財産 (元入金)			323,771
5 利益剰余金			318
負債の部合計			324,089

9 主な財務比率

比率名	算式 (×100)	評価	比率
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	56.3%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	低い方が良い	67.9%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	31.5%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	27.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	1.2%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	5.3%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	低い方が良い	137.6%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	どちらとも いえない	82.8%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	20.1%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	1.9%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	8.1%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	9.9%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	31.2%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	どちらとも いえない	9.9%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	-16.4%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	高い方が良い	-15.6%

(注1) 「経常収入」＝「教育活動収入計」＋「教育活動外収入計」

(注2) 「経常支出」＝「教育活動支出計」＋「教育活動外支出計」

(注3) 「経常収支差額」＝「経常収入」－「経常支出」

(注4) 寄付金比率の「寄付金」には特別収支の「施設設備寄付金」及び「現物寄付」を含む。

(注5) 補助金比率の「補助金」には特別収支の「施設設備補助金」を含む。